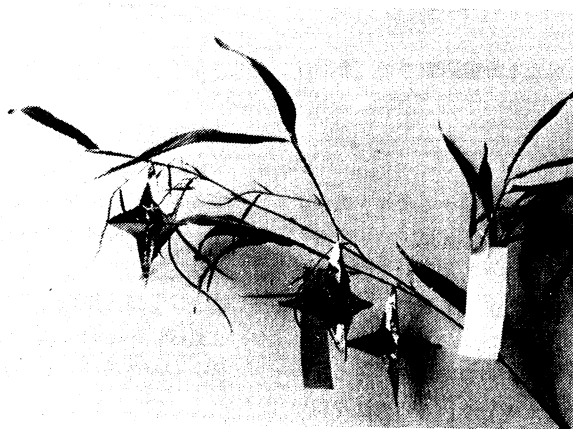


## 目 次

歳時記	1	8. 金融	23
地域メッシュ統計	2	9. 物価	24
統計の窓	4	10. 経済	25
県人口は 2,342,198人	6	11. 消費生活相談	25
全国を上回った賃金の伸び	9	12. 家計	26
指 標		13. レジャー	28
1. 主要指標	14	14. 保健相談	28
2. 人 口	16	15. 交通事故	29
3. 労 働	18	16. 交通事故保障相談	29
4. 農 業	20	17. 犯 罪	30
5. 鉱 工 業	21	18. 火 災	30
6. 建 築	22	刊行物のお知らせ	31
7. 電 力	22	伝 言 板	32

### 利 用 上 の 注 意

- |                         |                           |
|-------------------------|---------------------------|
| 1 統計表の数値は原則として単位未満は四捨五入 | 2 「年」は暦年、「年度」は4月から翌年の3月まで |
| 3 記 号                   |                           |
| — 零または該当数字のないもの         | r 訂正数字                    |
| 0 該当数字が掲載単位未満のもの        | △ 減少または出超                 |
| … 不詳のもの                 | x 秘密保持のため掲載をひかえたもの        |
| p 暫定数字                  |                           |



七月七日は七夕。旧暦では今年は8月21日にあたっている。水戸の七夕祭（黄門祭）は、8月5、6、7日の3日開催され、期間内には、県職員有志による踊りとみこしも披露されるとか。今から練習が盛んである。

### 今月のおもな行事

- 4～5日 地方統計職員業務研修（基礎）（水戸市）
- 6～7日 玉造町統計調査員研修会（福島県）
- 14～15日 地方統計職員業務研修（専門）（大洗町）
- 15日 消費実態調査市町村打合せ会（水戸市）
- 20日 毎月勤労統計特別調査打合せ会（水戸市）
- 20～21日 統計実務講習会（東京都）  
筑波郡統計調査員大会（福島県）

## 地域メッシュ統計

5月号、6月号と数学的なはなしが続いたので、今回は話題を変えてみよう。

### 地域メッシュ統計とは……

「地域メッシュ統計」とは、地域に関する情報を表示する単位として、地図上に正方形、又はこれに近い小区画を設定したものである。そして、情報として統計データを表示したものが、「地域メッシュ統計」である。

メッシュ(mesh)というのは、「(ふるいなど)の目」とか「網の目」と訳されるように、対象地域をいくつかの網の目に分けた区分をつくることをいう。この方法を用いることによって、特定地域をすき間なく、一定間隔の縦線と横線で区画し、等形、等積の小地域単位にデータが表章され、地域の実態をより詳細に、かつ同一の基準で把握することができることになる。

メッシュの形状は、正方形、長方形、三角形、六角形など種々考えられるが、通常は、正方形が用いられている。その理由は、座標系(縦軸と横軸)によって単純に位置表示が可能なこと、符号付けが容易であること、縦と横の長さが等しいので、距離や面積の測定に便利であること、地図化が容易であることなどの利点が多いことである。

近年、都市計画や地域開発計画などの分野でも、このメッシュ法が注目され、データの集計や整理などに用いられてきている。この手法がいろいろの分野で幅広く応用され始めているのは、次のような利点によるものである。

- ① 面積が一定であるから、各種のデータについて相互間の比較が容易である。
- ② 行政区域、地形、地物等の変化による影響を受けることなく、地域が固定しているので、時系列比較が容易である。
- ③ 任意の地域について、その地域内の地域メッシュを合算すれば、必要な地域についてのデータを容易に作成することができる。
- ④ 各地域の形状が同様であるので、位置の表示が単純で、電子計算機による処理や地図化が容易である。

地域メッシュ方式には、欠点がないわけではない。すなわち、地域メッシュに編集することを前提に情報が収集されているケースは少なく、任意の面積、形状の地域単位で調査され、まとめられているデータをメッシュの枠の中に組み替えることが多いため、精度がやや低下する恐れがある。また、地域メッシュは、その境界が現実の地形、地物によって設定できないので、メッシュ内を全数調査するよ

うなデータ収集には適さないことなどである。

### 地域メッシュの区分の方法は……

地域メッシュの区分の方法として、我が国で用いられているものを大別すると、次の3種類がある。

- ① 一定の経度緯度間隔に基づいて区画する方法(経緯度法)
- ② UTM座標系(Universal Transverse Mercator Grid System)による方法
- ③ 17座標系による方法

経緯度法は、一定の経度緯度間隔に基づいて、地域メッシュを区画する方法で、例えば、経度5分、緯度5分ごとのように経度緯度をそれぞれ等間隔に縦線、横線を引くなどして、メッシュを区切る方法である。

経緯度法に基づく地域メッシュは、地球の球体にかぶせたメッシュであるので、日本のように南北に長い国土では、北海道では単位面積が小さく、九州では単位面積が大きくなる。

このように、経緯度法は、厳密に等積、等形にならないという欠点があるので、形態がほぼ矩形であること、大きさに若干の差があることを無視できる場合は、他の方式に比べて、次のような利点があるので、現在、統計用の標準メッシュとして採用されている。

- ① 地域メッシュを連続性をもって区切ることができるので、全国ベースでデータを作成、利用する場合に断裂が生じない。
- ② 経緯度の記載されている地図ならどれでも使え、誰でも地図上に簡単に方眼線を記入できる。
- ③ 縮尺の異なる地図に転写するのが容易である。

UTM座標系による方法は、180度の経線から東廻りに6度ごとに区切った笹の葉状の経度帯ごとに原点を定め、平面直角座標系を作るという方法である。これは第2次大戦中連合軍の軍用地図の基礎として、国際的に統一した図法のシステムとして考案されたもので、現在国際的に広く用いられている。

17座標系による方法は、国土基本図や公共測量図などに現在使われているもので、日本全国に17座標の原点を設け、それぞれの原点を中心に、非常に狭い範囲ごとに平面直角座標系を設計したものである。

上 沢 光 男

地域メッシュ統計の必要性は……

従来、我が国の重要な統計の地域別表章区分の最小単位は、「市町村」であった。

我が国において、市区町村よりも小さい地域（小地域）別データあるいは小地域別統計の必要性が増大してきたのは、昭和28年に町村合併促進法が施行され、それにとりまう市町村合併の急激な進行がみられたからである。このような市町村合併の促進の結果、全国の市町村数は

昭和25年	30年(合併進行中)	35年(合併一段落)
10,414市町村	4,813	3,511

となり、したがって、市町村の平均規模は、

区 分	昭和25年	35年
平均人口	約 8,000人	約 27,000人
面 積	約 35km <sup>2</sup>	約 105km <sup>2</sup>

となった。しかし、このように、市町村の規模が大きくなったにもかかわらず、統計の地域表章の最小単位は依然としてその大きくなった市町村であったため、統計利用者の中から、市町村を分割したような小地域別表章の必要性が叫ばれるようになったのである。

農林省が、昭和30年臨時農業センサスの際に、各市町村内に最小の表章地域区分としての「農業集落」を設定した。また、総理府統計局でも、市町村内に「人口集中地区(DID)」を設定し、昭和35年国勢調査以来市町村別結果とともにこの人口集中地区別結果の表章を行なっている。

地域メッシュ統計利用上の問題点としてはなにがあるか……

地域メッシュ統計は、現在各方面で作成、利用され、その範囲もしだいに拡大してきているが、次のような問題点がある。

- ① 地域メッシュを単位とする任意の地域区分によってデータが得られるといっても、抽象的な四角形の寄せ集めにすぎず、行政地域のような実体的な地域区分による数字は得られない。
- ② 地域メッシュ統計の作成に非常に多くの人手と時間がかかる。
- ③ プライバシーの侵害のおそれがある。
- ④ 地域メッシュ統計の精度に関するもの。

(水戸県税事務所)

図-1 経緯度法による地域メッシュの第一次区画

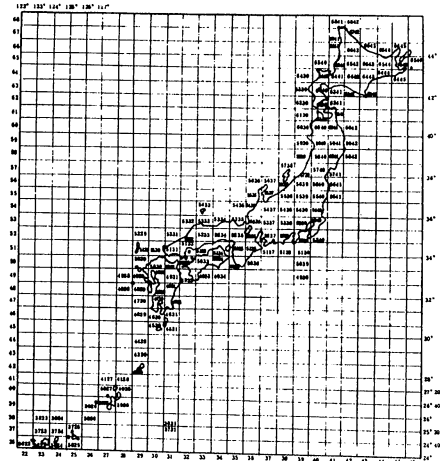


図-2 UTM図法の座標の表し方

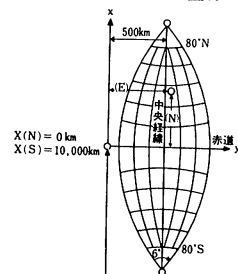
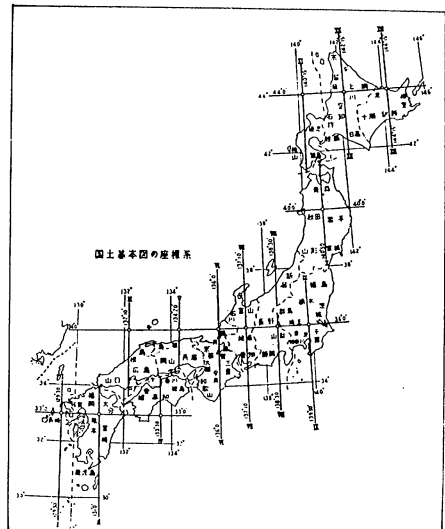


図-3 17座標系図法の表し方



## ゼロベース予算と統計

石田 晃

毎年のことですが、今年もまた来年度予算要求の季節に入りました。大蔵省へ予算要求書を提出するのは、8月の末ですが、各原局段階では、4月末から6月末にかけて、重点事項を絞ることと、説明資料作成に追われることになります。

予算案を国会に提出し議決を受けるまでのいわゆる予算編成手続きは、国によって行政府と議会の関係や、財政制度の違いもあって、いろいろの手続きが作り出されています。しかし、今年度予算に対して、来年度予算の規模をいくらにするか、予算配分の重点をどこに置くかは、来年度の景気見通しや、租税収入、国債発行規模を考慮して、予算編成当局や政党によって決定されていくわけですが、この面での国際間の違いは、重点の置きどころの違いを無視すれば、あまり大きなものではないように思われます。つまり、予算配分にあたって、前年度や過去の予算額の推移を考慮した、いわゆる増分主義（インクレメンタリズム）が多く、の国によって慣習的にとられているからです。それは、一度予算化された施策は、施策当局や関係団体や議員にとって既得権視されることにもよるでしょうし、施策が毎年実施と中止を繰り返しては、施策の効果も挙げられないということにもよると思われます。そして、予算当局は、新規施策のための新規予算要求に対して、査定を集中的に行うことになるのは、単に日本だけの予算編成手続きではないようです。アメリカでは、大統領に予算案の議会への提出権はなく、ガイドラインを示すという意味で、毎年、次年度予算に関する「予算教書」が発表されますが、予算案の議会への提出権は議員にあり、いわゆる議員立法の形で予算が成立します。しかし、その内容は、議員と関係省との深いつながりもあって、増分主義が大勢を占めています。アメリカは、永年財政の赤字に悩まされてきましたが、日本でも、昭和48年の石油ショックを契機とした世界的な経済停滞のもとで、昭和51年度以降赤字国債の発行を余儀なくされており、52年度には一般会計予算の30%を国債発行でまかなうことになったことは読者の皆さんもよく御存

知のことと思います。財政の健全化はインフレを防ぐ意味からも、古くから財政学で説かれているところですが、失業、遊休生産設備の存在や、世界各国から景気引き上げの索引車の一つとして期待されていることから、赤字国債依存を1年でも早く解消させる政策をとるか、景気促進のため更に赤字国債を増やすべきか、議論のわかれるところであることは、これまた一般に知られていることです。

しかし、これからの経済の動向は、日本だけが高度成長を満喫することはとても考えられず、安定成長軌道に無事乗せることが、資源や、環境保護、世界各国との友好関係の維持促進の観点からも要請されるのは当然と思われます。

このような経済動向を考えると、付加価値税の導入や、所得税の大幅な引き上げを行わない限り、財政収入の伸びには限度があり、いわゆる財政硬直化が高まって新規施策を行って行政需要の動向に応えることは難しくなるのは当然の成り行きともいえるでしょう。このような状況は、日本ばかりでなく、経済が低成長を続けている欧米先進諸国にもひとしく見られる現象です。最近アメリカで、ゼロベース予算を予算編成の手続きとして導入しようとしているのもこのような背景からで、財政赤字の解消と政策的に自由に運営できる予算の枠を拡げることが狙ったものであることはいうまでもありません。このゼロベース予算編成が、連邦政府においてどのような手続きをとってなされるかは、いまだ全貌はわかりません。ただ、議会に「施策の総合的及び定期的見直しに関する法律案」（S-2952法案）通称サンセット法案として提出され成立の見通しであること、及びカーター大統領は1979年度予算から導入する意向を持っていることは事実のようです。

このゼロベース予算編成方式は、その方法と考え方の上で、現在の日本の統計がかかえている問題やその発展の方向を考える上で有益な示唆を与えられると思われしますので、ここにその要点だけを紹介し、統計との関連に触れてみます。

ゼロベース予算編成の方式や考え方は、Peter A. Pyhrの「Zero-Base Budgeting」に詳しく紹介されておま

す。その内容は、カーター大統領が知事をしていたジョージア州での経験に基づいて書かれており、著者は当時ジョージア州予算コンサルタントとして、実際に、この方式による州の予算編成を手がけ、機構、人員、予算の面で大幅な簡素合理化に成功したようです。この予算編成方式については種々の角度から論じられますが、そのうち、統計との関連でとくに二つの点だけを述べておきます。その一つは、この予算編成では、現在実施中の施策に係わる予算についても、果してどの程度の効果をあげているか、費用(予算)との関連で施策実施に値いするかを分析し、課、部、局と数多くの施策が積み上げられる過程で分析結果を考慮してランク付けがなされ、予算を配分することです。他の点は、施策の目標をできるだけ明確にし、施策の実施計画をたてることを要求すると共に、もし、その施策を実施しない時は、具体的にどのような障害があるかを立証することも要求しています。また、予算要求の際も通常の増分主義的な要求額のほか、施策の中止に伴う障害を考慮して、必要最少限の予算はどのくらいであるかも同時に示すことを要求しています。以上が、ゼロベース予算編成方式の考え方と手続きの二つのポイントですが、ここから統計に対

して二つの示唆が得られると思います。

その一つは、予算編成を通じた施策の効果予測ないし費用効果分析のため、あるいは行政の科学的執行に今後益々統計情報に対する需要は増え、それに対応して統計情報の整備を一層進める必要があるということと、他の点では、現行統計調査も、単に時系列のために続けるというだけでなく、統計利用目的と実際の利用を検討し、費用効果あるいはその有効性の観点から現行統計と統計調査の体系を見直す必要を感じた次第です。現行統計と統計調査の体系は、戦後ゼロに等しい基盤から、世界に誇るまでに整備されてきました。しかし、戦後30年を経過し、社会経済の状況も大きく変わり、行政の果す分野と役割も大きく変っている今日、統計だけが過去からの延長線上に発展していったものか考えさせられております。勿論、統計における時系列の保持も重要ですし、統計の場合その効果を測定することは他の施策以上に技術的困難なことはいうまでもないことですが。

(行政管理庁 統計審査官)



# 県人口は 2,342,198人

## —昭和50年国勢調査の確定数公表—

昭和50年10月1日現在で実施した国勢調査の確定人口及び世帯数は、集計の都度5回に分けて官報に告示（2月15日付、3月22日付、5月4日付、5月14日付、6月15日付）された。

本県の結果については、5月4日付官報（総理府告示第13号）で告示され、確定人口は2,342,198人で概数2,342,173

人に比べ25人の増加となった。

県内92市町村のうち、概数と確定数がピッタリ一致したのは43市町村で、前回45年の29市町村よりも大きく増えている。

なお、全国総人口の確定数は111,939,643人で概数より5,825人の増加である。

### 昭和50年国勢調査概数、確定数比較数

市 町 村	人 口						世 帯 数	
	計		男		女		概 数	確 定 数
	概 数	確 定 数	概 数	確 定 数	概 数	確 定 数		
<b>総 数</b>	<b>2,342,173</b>	<b>2,342,198</b>	<b>1,159,772</b>	<b>1,159,707</b>	<b>1,182,401</b>	<b>1,182,491</b>	<b>590,459</b>	<b>590,131</b>
<b>市 部</b>	<b>1,160,359</b>	<b>1,160,352</b>	<b>572,661</b>	<b>572,640</b>	<b>587,698</b>	<b>587,712</b>	<b>313,372</b>	<b>313,122</b>
<b>郡 部</b>	<b>1,181,814</b>	<b>1,181,846</b>	<b>587,111</b>	<b>587,067</b>	<b>594,703</b>	<b>594,779</b>	<b>277,087</b>	<b>277,009</b>
水 戸 市	197,950	197,953	96,246	96,244	101,704	101,709	60,166	60,158
日 立 市	202,387	202,383	101,619	101,615	100,768	100,768	56,315	56,303
土 浦 市	104,031	104,028	51,715	51,718	52,316	52,310	29,109	28,987
古 河 市	55,971	55,973	27,504	27,508	28,467	28,465	15,151	15,144
石 岡 市	43,678	43,679	21,193	21,179	22,485	22,500	11,479	11,487
下 館 市	57,778	57,778	28,382	28,395	29,396	29,383	14,327	14,325
結 城 市	44,130	44,130	21,786	21,803	22,344	22,327	10,589	10,529
竜 ヶ 崎 市	40,569	40,565	20,288	20,281	20,281	20,284	10,433	10,431
那 珂 湊 市	33,144	33,147	15,974	15,968	17,170	17,179	8,315	8,308
下 妻 市	29,234	29,235	14,315	14,312	14,919	14,923	6,887	6,886
水 海 道 市	38,820	38,820	19,091	19,078	19,729	19,742	9,155	9,147
常 陸 太 田 市	35,322	35,322	16,885	16,883	18,437	18,439	8,983	8,980
勝 田 市	79,997	79,996	40,569	40,563	39,428	39,433	21,352	21,350
高 萩 市	30,982	30,982	15,141	15,144	15,841	15,838	8,525	8,526
北 茨 城 市	44,332	44,332	21,373	21,371	22,959	22,961	11,560	11,560
笠 間 市	30,908	30,909	14,947	14,951	15,961	15,958	7,533	7,531
取 手 市	52,821	52,816	26,539	26,535	26,282	26,281	14,868	14,851
岩 井 市	38,305	38,304	19,094	19,092	19,211	19,212	8,625	8,619
<b>東 茨 城 郡</b>	<b>132,347</b>	<b>132,357</b>	<b>65,244</b>	<b>65,257</b>	<b>67,103</b>	<b>67,100</b>	<b>31,456</b>	<b>31,456</b>
常 澄 村	9,247	9,247	4,491	4,494	4,756	4,753	2,004	2,004
茨 城 町	30,565	30,574	15,307	15,308	15,258	15,266	6,988	6,988
小 川 町	17,250	17,251	8,975	8,974	8,275	8,277	3,932	3,930
美 野 里 町	17,160	17,159	8,397	8,398	8,763	8,761	4,125	4,127
内 原 町	13,658	13,659	6,756	6,752	6,902	6,907	3,046	3,048

市 町 村	人 口						世 帯 数	
	計		男		女			
	概 数	確 定 数	概 数	確 定 数	概 数	確 定 数	概 数	確 定 数
常 北 町	10,551	10,549	5,059	5,060	5,492	5,489	2,651	2,650
桂 村	6,897	6,896	3,283	3,285	3,614	3,611	1,751	1,750
御 前 山 村	5,356	5,356	2,591	2,592	2,765	2,764	1,334	1,333
大 洗 町	21,663	21,666	10,385	10,394	11,278	11,272	5,625	5,626
<b>西 茨 郡</b>	<b>64,502</b>	<b>64,502</b>	<b>31,623</b>	<b>31,623</b>	<b>32,879</b>	<b>32,879</b>	<b>15,297</b>	<b>15,301</b>
友 部 町	24,146	24,146	11,866	11,870	12,280	12,276	5,858	5,861
岩 間 町	15,012	15,012	7,357	7,354	7,655	7,658	3,565	3,565
七 会 村	3,015	3,015	1,537	1,536	1,478	1,479	673	673
岩 瀨 町	22,329	22,329	10,863	10,863	11,466	11,466	5,201	5,202
<b>那 珂 郡</b>	<b>111,758</b>	<b>111,760</b>	<b>54,970</b>	<b>54,982</b>	<b>56,788</b>	<b>56,778</b>	<b>27,871</b>	<b>27,863</b>
東 海 村	25,151	25,151	13,057	13,058	12,094	12,093	6,271	6,270
那 珂 町	34,213	34,213	16,753	16,759	17,460	17,454	8,521	8,520
瓜 連 町	7,117	7,117	3,359	3,359	3,758	3,758	1,701	1,700
大 山 宮 町	23,488	23,489	11,269	11,273	12,219	12,216	5,981	5,979
美 和 町	9,864	9,864	4,755	4,756	5,109	5,108	2,500	2,499
緒 川 村	6,150	6,151	2,982	2,982	3,168	3,169	1,432	1,431
	5,775	5,775	2,795	2,795	2,980	2,980	1,465	1,464
<b>久 慈 郡</b>	<b>55,969</b>	<b>55,967</b>	<b>26,955</b>	<b>26,951</b>	<b>29,014</b>	<b>29,016</b>	<b>13,695</b>	<b>13,695</b>
金 砂 郷 村	11,310	11,310	5,446	5,444	5,864	5,866	2,733	2,733
水 府 村	8,284	8,284	3,979	3,977	4,305	4,307	1,994	1,993
里 美 村	5,508	5,507	2,639	2,640	2,869	2,867	1,348	1,348
大 子 町	30,867	30,866	14,891	14,890	15,976	15,976	7,620	7,621
<b>多 賀 郡</b>	<b>10,127</b>	<b>10,127</b>	<b>4,907</b>	<b>4,912</b>	<b>5,220</b>	<b>5,215</b>	<b>2,564</b>	<b>2,560</b>
十 王 町	10,127	10,127	4,907	4,912	5,220	5,215	2,564	2,560
<b>鹿 島 郡</b>	<b>157,291</b>	<b>157,297</b>	<b>81,066</b>	<b>81,055</b>	<b>76,225</b>	<b>76,242</b>	<b>37,544</b>	<b>37,542</b>
旭 村	10,213	10,217	5,008	5,008	5,205	5,209	2,179	2,177
銚 田 町	26,641	26,643	13,073	13,079	13,568	13,564	6,346	6,343
大 洋 村	9,517	9,517	4,700	4,703	4,817	4,814	2,119	2,121
大 野 村	11,104	11,104	5,486	5,487	5,618	5,617	2,484	2,483
鹿 島 町	37,128	37,126	20,414	20,404	16,714	16,722	9,136	9,138
神 栖 町	29,972	29,974	15,823	15,810	14,149	14,164	7,554	7,556
波 崎 町	32,716	32,716	16,562	16,564	16,154	16,152	7,726	7,724
<b>行 方 郡</b>	<b>69,981</b>	<b>69,983</b>	<b>34,323</b>	<b>34,326</b>	<b>35,658</b>	<b>35,657</b>	<b>16,266</b>	<b>16,268</b>
麻 生 町	18,195	18,194	8,995	8,994	9,200	9,200	4,100	4,099
牛 堀 町	6,838	6,837	3,311	3,309	3,527	3,528	1,622	1,621
潮 来 町	20,670	20,670	10,047	10,053	10,623	10,617	5,129	5,133
北 浦 村	10,919	10,921	5,434	5,435	5,485	5,486	2,368	2,369
玉 造 町	13,359	13,361	6,536	6,535	6,823	6,826	3,047	3,046
<b>稻 敷 郡</b>	<b>126,946</b>	<b>126,952</b>	<b>62,835</b>	<b>62,828</b>	<b>64,111</b>	<b>64,124</b>	<b>30,372</b>	<b>30,364</b>
江 戸 崎 町	12,715	12,176	5,945	5,948	6,230	6,228	2,945	2,946
美 浦 村	8,161	8,161	3,955	3,954	4,206	4,207	1,856	1,855
阿 見 町	29,738	29,737	15,012	15,004	14,726	14,733	7,622	7,618



# 特 集

市 町 村	人 口						世 帯 数	
	計		男		女		概 数	確 定 数
	概 数	確 定 数	概 数	確 定 数	概 数	確 定 数		
牛久町	27,674	27,674	13,761	13,760	13,913	13,914	7,148	7,147
荃崎村	8,305	8,305	4,207	4,202	4,098	4,103	1,940	1,938
新利根村	8,590	8,591	4,187	4,191	4,403	4,400	1,869	1,869
河内村	11,657	11,657	5,696	5,701	5,961	5,956	2,510	2,510
桜川村	7,865	7,866	3,804	3,803	4,061	4,063	1,783	1,783
東村	12,781	12,785	6,268	6,265	6,513	6,520	2,699	2,698
<b>新治郡</b>	<b>92,761</b>	<b>92,758</b>	<b>47,079</b>	<b>47,051</b>	<b>45,682</b>	<b>45,707</b>	<b>21,161</b>	<b>21,127</b>
新出島村	17,152	17,152	8,493	8,484	8,659	8,668	3,922	3,922
玉里村	6,126	6,126	3,088	3,080	3,038	3,046	1,362	1,362
八郷町	27,487	27,483	13,471	13,464	14,016	14,019	5,964	5,933
千代田村	18,634	18,634	9,704	9,701	8,930	8,933	4,655	4,652
新治村	8,548	8,549	4,208	4,211	4,340	4,338	1,961	1,960
桜村	14,814	14,814	8,115	8,111	6,699	6,703	3,297	3,298
<b>筑波郡</b>	<b>91,789</b>	<b>91,789</b>	<b>45,195</b>	<b>45,180</b>	<b>46,594</b>	<b>46,609</b>	<b>20,989</b>	<b>20,984</b>
谷田部町	22,225	22,225	11,122	11,120	11,103	11,105	5,102	5,100
伊奈村	15,250	15,250	7,519	7,513	7,731	7,737	3,502	3,500
谷和原村	10,152	10,152	4,984	4,984	5,168	5,168	2,218	2,218
豊里町	10,898	10,898	5,382	5,376	5,516	5,522	2,418	2,417
筑波町	22,011	22,011	10,647	10,647	11,364	11,364	5,186	5,186
大穂町	11,253	11,253	5,541	5,540	5,712	5,713	2,563	2,563
<b>真壁郡</b>	<b>74,368</b>	<b>74,377</b>	<b>36,411</b>	<b>36,409</b>	<b>37,957</b>	<b>37,968</b>	<b>16,778</b>	<b>16,774</b>
関城町	14,838	14,845	7,330	7,330	7,508	7,515	3,254	3,252
明野町	16,518	16,521	8,108	8,113	8,410	8,408	3,687	3,686
真壁町	20,685	20,685	10,050	10,049	10,635	10,636	4,825	4,825
大和村	7,320	7,319	3,594	3,594	3,726	3,725	1,573	1,572
協和町	15,007	15,007	7,329	7,323	7,678	7,684	3,439	3,439
<b>結城郡</b>	<b>49,507</b>	<b>49,506</b>	<b>24,294</b>	<b>24,300</b>	<b>25,213</b>	<b>25,206</b>	<b>10,725</b>	<b>10,723</b>
八千代町	22,161	22,160	10,924	10,924	11,237	11,236	4,594	4,593
千代川村	8,126	8,126	3,956	3,961	4,170	4,165	1,809	1,809
石下町	19,220	19,220	9,414	9,415	9,806	9,805	4,322	4,321
<b>猿島郡</b>	<b>100,052</b>	<b>100,055</b>	<b>50,383</b>	<b>50,357</b>	<b>49,669</b>	<b>49,698</b>	<b>21,781</b>	<b>21,763</b>
総和町	32,073	32,074	16,669	16,664	15,404	15,410	7,429	7,418
五霞村	8,634	8,636	4,244	4,246	4,390	4,390	1,719	1,718
三和町	20,841	20,842	10,368	10,366	10,473	10,476	4,446	4,441
猿島町	14,157	14,156	7,080	7,067	7,077	7,089	2,805	2,805
境町	24,347	24,347	12,022	12,014	12,325	12,333	5,382	5,381
<b>北相馬郡</b>	<b>44,416</b>	<b>44,416</b>	<b>21,826</b>	<b>21,836</b>	<b>22,590</b>	<b>22,580</b>	<b>10,588</b>	<b>10,589</b>
守谷町	14,506	14,505	7,206	7,209	7,300	7,296	3,408	3,408
藤代町	20,407	20,407	9,953	9,959	10,454	10,448	5,031	5,032
利根町	9,503	9,504	4,667	4,668	4,836	4,836	2,149	2,149

(県統計課 人口学事統計係)

# 全国を上回った賃金の伸び

## —昭和51年の毎月勤労統計調査地方調査—

昭和51年の茨城県における、賃金・労働時間・雇用の動きを、毎月勤労統計調査地方調査の結果からみると、つぎのような特徴がみられた。

### 1 賃金の動き

#### (1) 名目賃金

昭和51年の本県における常用労働者1人1カ月当り現金給与総額は、調査産業計（サービス業を除く以下同じ）176,717円となり、前年に比べ、12.8%増、前

年の伸び率14.9%に比べ2.1ポイント減少した。

産業別に伸び率の動きをみると前年の伸び率を上回っている産業は、卸売業、小売業（14.8%増）のみで他の産業は前年に比べ伸び率は大幅な減少となった。

さらに、これを製造業の中でみると、前年の伸び率を上回っている産業は、金属製品15.8%、非鉄金属14.9%、精密機械13.9%、輸送用機械12.3%、被服・その他11.0%、窯業、土石製品9.6%となり、他の産業は前年に比べ2～8ポイント下回っている。（表-1）

表-1 産業別賃金の動き

産 業	現金給与総額			きまって支給する給与			特別に支払われた給与		
	実 額	対前年増減率		実 額	対前年増減率		実 額	対前年増減率	
		50年	51年		50年	51年		50年	51年
調 査 産 業 計 (サービス業を除く)	円 176,717	% 14.9	% 12.8	円 133,673	% 16.4	% 14.8	円 43,044	% 8.9	% 7.1
建 設 業	164,593	13.0	5.6	132,483	15.6	7.9	32,110	5.0	△ 3.0
製 造 業	172,849	13.5	12.6	131,236	15.9	15.1	41,613	7.1	5.5
卸 売 業、小 売 業	139,428	0.6	14.8	107,515	16.7	12.9	31,913	0.9	21.6
金 融・保 険 業	238,315	28.5	21.5	154,136	13.3	23.1	84,179	36.4	18.7
運 輸・通 信 業	208,636	19.9	13.8	159,276	17.8	16.7	49,360	26.4	5.6
電 気・ガ ス・水 道・ 熱供給業	242,918	22.5	9.0	178,241	19.5	11.8	64,677	31.2	1.8

#### (2) 定期給与

常用労働者の1人平均月間定期給与額は、調査産業計で133,673円となり、前年に比べ14.8%増(前年16.4%増)であった。産業別に伸び率をみると前年の伸び率を上回った産業は金融・保険業(23.1%増)のみで運輸・通信業16.7%、製造業15.1%、卸売業、小売業12.9%、電気・ガス・水道・熱供給業11.8%、建設業7.9%の順で増加しているが前年に引き続いてそれぞれ大幅な減少を示している。

製造業の中でみると、前年の伸び率を上回っている産業は、機械製品19.2%、電気機械18.1%、非鉄金属17.9%、精密機械17.3%、化学工業、16.8%、被服・その他14.1%である。

#### (3) 特別給与

常用労働者の1人平均月間特別給与は43,044円(年間累計で516,525円)で前年に比べ7.1%増(前年8.9

%増)であった。

産業別では前年の伸び率を上回った産業は卸売業、小売業21.6%のみであった。(表-1)

さらに、特別給与のうち夏期手当(6月、7月分合計)と年末手当(12月)についてみると、夏期手当221,137円で10.8%増、年末手当は261,553円で11.0%増となっているが、いずれも前年の伸び率を下回っている。

これは、名目賃金の伸びが鈍化したのと同様、夏期及び年末一時金の伸びが大幅に鈍化または減少したことによる。

#### (4) 賃金格差

賃金の水準を全国平均と比べると全国では1人平均月間現金給与額は194,207円となり本県の場合は176,717円で全国より17,490円(9.0%)低い。

この賃金格差は年々縮少の傾向にあるが全国を100とした場合51年は91.0となり前年の92.1に比べわずか

# ■調査から

に格差が大きくなった。(表-2)

表-2 賃金の格差(現金給与総額)

全国平均=100

区分	45年	46	47	48	49	50	51
全国	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
茨城	90.6	91.8	92.5	88.2	90.3	92.1	91.0

産業別に賃金格差をみると最も高い産業は調査産業計を100とした場合電気・ガス・水道・熱供給業137.5で、そのほか100以上は金融・保険業134.9、運輸・通信業118.1であるが各産業とも平均して縮少傾向がみられる。

きまって支給する給与においても同じことがいえる。

つぎに、男女別の賃金格差をみると、男子の現金給与総額を100とすれば、表-3にみられるように調査産業計の女子は49.5となり、前年の50.5に比べ男子の賃金との差が再び大きくなった。

このうち格差の大きい順に各産業をみると製造業46.4、金融・保険業47.1、建設業49.0、電気・ガス・水道・熱供給業58.2、卸売業、小売業60.0、運輸・通信業66.4などである。

定期給与においても女子は50.7で前年の52.2に比べて現金給与総額と同様格差が大きくなっている。また各産業別にみても現金給与総額と同じことがいえる。

表-3 男女間賃金格差(現金給与総額)

産 業	男	女	男女間賃金格差	
			男	女
全 産 業	206,081	102,040	100.0	49.5
建 設 業	178,265	87,283	100.0	49.0
製 造 業	204,255	94,758	100.0	46.4
卸売業、小売業	170,513	102,316	100.0	60.0
金 融・保険業	322,283	151,888	100.0	47.1
運 輸・通信業	216,266	143,617	100.0	66.4
電気・ガス・水道 熱 供 給 業	258,498	150,619	100.0	58.2

## (5) 実質賃金

実質賃金指数(昭和50年=100)によってみると、51年は103.4となり、前年に比べて3.4%増加した。また、50年の伸び率2.9%を0.5ポイント上回った。(表-4)

表-4 実質賃金指数

昭和50年平均=100

年 次	名目賃金 指 数	消 費 者 物 価 指 数	実 質 賃 金 指 数
45年	43.1	57.3	75.2
46	49.7	61.2	81.2
47	57.6	63.4	90.9
48	67.7	71.1	95.2
49	87.0	89.5	97.2
50	100.0	100.0	100.0
51	112.8	109.1	103.4

## 2 出勤日数および労働時間

### (1) 出勤日数

昭和51年の本県における常用労働者の1人平均月間出勤日数は21.5日で、前年に比べ0.3日(1.4%)増加している。(表-5)

また、全国平均21.8日からみると0.3日(1.4%)少なくなっている。

男女別にみると男子は21.7日で0.4日増、女子は21.2日で0.3日増で男女ともわずかな伸びを示している。

### (2) 労働時間

総実労働時間は1人平均月間178.9時間で、前年に比べ7.9時間(4.4%)増となり前年に比べ増加傾向を示している。

総実労働時間を所定内と所定外にわけてみると、所定内労働時間は164.0時間で前年に比べ2.1%増、所定外労働時間は14.9時間で前年に比べて40.3%増となり、いずれも前年よりも回復の傾向をみせている。

### (3) 産業別労働時間

産業別に総実労働時間の動きをみると、所定内労働時間が増加に転じた産業は製造業(3.2%)、運輸・通信業(3.1%)、電気・ガス・水道・熱供給業(1.9%)、金融・保険業(1.7%)で、建設業、卸売業、小売業は減少している。

所定外労働時間では建設業を除いて各産業とも大幅な伸びを示している。(表-5)

また、製造業の中で所定外労働時間の動きをみると、非鉄金属138.1%、電気機械88.1%、輸送用機械66.3%、精密機械52.3%、食料品・たばこ23.0%、被服・その他19.3%増でいずれも大幅な伸びを示しているにもかかわらず繊維工業のみが22.1%の減少を示している。

表-5 産業別出勤日数及び労働時間対前年増減率

産 業	出 勤 日 数		総実労働時間数		所定内労働時間数		所定内労働時間数	
	実 数	対前年増減率	実 数	対前年増減率	実 数	対前年増減率	実 数	対前年増減率
調 査 産 業 計 (サービス業を除く)	21.5	1.4%	178.9	4.4%	164.0	2.1%	14.9	40.3%
建 設 業	22.8	0.4	187.9	△ 1.8	175.0	△ 1.7	12.9	△ 2.8
製 造 業	21.1	2.9	177.2	6.8	163.3	3.2	13.9	67.4
卸 売 業、小 売 業	22.7	△ 0.4	174.5	△ 2.5	166.9	△ 2.8	7.6	3.4
金 融・保 険 業	22.6	2.7	164.1	3.5	150.3	1.7	13.8	31.9
運 輸・通 信 業	22.2	△ 0.9	195.8	4.4	165.9	3.1	29.9	11.0
電 気・ガ ス・水 道・ 熱 供 給 業	21.6	3.3	167.3	0.7	158.8	1.9	8.5	△ 17.3

3 雇用の動き

(1) 雇用水準

昭和51年における雇用の動きを常用雇用指数（昭和50年=100）によってみると、101.5で前年に比べて1.5

ポイント増加した。一方、推計常用労働者数は月平均245,830人で前年に比べ1.5%（10,885人）増加した。（表-6）

表-6 産業別雇用指導

昭和50年平均=100

年 次	調 査 産 業 計 (サービス業を除く)	建 設 業	製 造 業	卸 売 業 小 売 業	金 融 保 険 業	運 輸 通 信 業	電 気・ガ ス・ 水 道 熱 供 給 業
50年	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
51	101.5	91.5	101.0	111.2	93.3	104.0	103.0

(2) 産業別雇用

産業別に雇用の対前年伸び率をみると増加を示した産業は卸売業、小売業11.2%、運輸・通信業4.0%、電気・ガス・水道・熱供給業3.3%、製造業1.0%であるが一方減少を示している産業は金融・保険業6.7%、建設業8.5%などであった。

さらに雇用の動きを入・離職率の状況でみると、調査産業計の入職率は1.6%（前年1.5%）となり前年に比べ0.1ポイント増加し、離職率は1.5%（前年1.8%）で前年に比べ0.3ポイント減少し、0.1ポイント入職率超過となった。

入・離職率を月別にみると、入職は4月が最も多く

その後次第に低くなり、離職率についても同様な傾向がみられ、特別な変化はみられなかった。

(3) 産業別雇用の割合

常用労働者の産業別構成をみると、製造業が全体の68.2%（167,689人）を占め、続いて運輸・通信業10.8%（26,562人）、卸売業、小売業9.9%（24,318人）、建設業5.1%（12,428人）、金融・保険業4.0%（9,857人）、電気・ガス・水道・熱供給業1.6%（3,823人）、その他0.4%（1,153人）の順となっている。（表-7）

前年に比べて構成比の減少した産業は建設業、金融・保険業、その他の産業などで他の産業はわずかに増加している。

表-7 推計常用労働者数の産業別構成比の動き

年 次	調 査 産 業 計 (サービス業を除く)	建 設 業	製 造 業	卸 売 業 小 売 業	金 融 保 険 業	運 輸 通 信 業	電 気・ガ ス・ 水 道 熱 供 給 業
50年	234,945	15,741	157,598	22,641	10,640	23,034	3,472
51	245,830	12,428	167,689	24,318	9,857	26,562	3,823
対前年増減率	1.5%	△ 8.5%	1.0%	11.2%	△ 6.7%	4.0%	3.3%
構成比	100.0	5.1	68.2	9.9	4.0	10.8	1.6

（県統計課 労働統計係）



## 東北の山旅

### — 早池峰山 (1,914m) —

東北線花巻駅からタクシーで40分、北上山地の懐ろ深い山あいの岳部落に着いたのは夕暮れ間近かいころである。ここが私達の早池峰山行のベースとして二晩お世話いただく部落である。民宿を兼ねて10軒ぐらゐの家が寄りそい、神さびた早池峰神社の重厚なたたずまいや、岳川の清流が静寂なふん囲気をかもし出している。夕食前に神社に入山の御挨拶と、明日の山行の安全を祈念する。

入山祝いの酒と6時間あまりの汽車の旅の疲れも相まって、明日の天気を心配しつつつか深い眠りに落ちていった。翌朝布団から飛び起き、天気をうかがうが、どんよりした曇り空であった。朝食もそこそこに、6時15分岳部落発。川原坊までは、ゆるい登りの自動車道。歩きながらも眠りが覚めず、大きなあくびが何度となく出る。その度に腹一杯新鮮な空気を吸う。毒気を追い出し、新鮮な空気で胸が一杯になったころ川原坊に着く。7時15分。早池峰山が修験道の山であったころ、ここには七堂伽藍があり目を見張るばかりだったというが、今は往時をとどめているものはなく、ただ川原坊の名前だけが伝説化した地名として残っている。

ここからが実質的な山登りとなる。霧雨の中、コメガモリ沢ぞいに登ってゆく。元気な5人のウグイス嬢達のさえずりもいつしか途絶えてしまった。「ガンバレ」と大声が飛ぶ。途中、一息入れると元氣も回復。コメガモリ沢と別れて右手の支尾根に取りつく。ここから高山植物の群落が点々と散在してくる。ミヤマシオガマや、チョウノスケソウが清楚な姿で私達を迎えてくれた。少々疲れのみえてきた人も、花を見るやその魅力に打たれて元氣が回復したらしい。あるべき所にあつてこそ、花の美しさが最大限に美しく見え、そして私達の心をなごませてくれる。有名なハヤチネウスユキソウは、残念ながら咲いていなかった。霧雨もすであがり岩石重畳する頂上近くからガスがかかってきた。乳白色の世界が私達をとりまく。振り返れば、ガスのきれ間から川原坊からのコースが一望できる。荒々しい岩組の中を一步一步確実に高度をかせいでゆく。4時間20分の登行の末、早池峰山に着いた。頂上に鎮座する早池峰神社奥宮に参拝。頂上からの眺望はガスのため得ることができなかったが、皆の顔は満足気に笑い、「御苦労さ

ん」という声が、心なしかはずんで聞こえた。私も思わず顔がほころぶ。

頂上の避難小屋にて昼食を摂る。笑いざめきながらの楽しい一時。鶏頭山縦走の予定を変更して、遠野口の小田越えに下ることとする。下りという気安さから身も心もはずみ、口も軽くなる。途中一ヶ所だけ鎖り場があるが、ものともせず、身のこなしもあざやかに伝わって降りてゆく。(中には、生来の高所恐怖症が再発しておぼつかない身のこなしの方もあったが……)遠野口コースも高山植物の宝庫で、ミヤマシオガマ、チョウノスケソウはもちろん、ツバメオモトやミヤマキンバイ等が乱舞している。チョウノスケソウなどは白い花のジュータンであった。ひざが大笑いを始めるころ小田越えに出た。自動車道のゆるい下りを何曲りか過ぎると、今朝の出発点の川原坊に着いた。歩いたコースを目で追うが、眼力も途中までしかかかない。来年は〇〇にしようか、いや〇〇がいいよ、などと言いつつ思い思いのペースで歩いてゆく。魚止めの滝にて最後の記念写真としゃれこむ。釣り人が一人、岩魚を二尾ばかり笹にさして糸を垂れている。

冷たい沢の流れ、清楚な高山植物、稜線を吹きぬける涼風、静かな東北の山らしい山行ができて、満足感が胸一杯広がるころ岳部落に着いた。(15時15分)

早速、早池峰神社に安全の御加護の御礼に参拝した。この夜の登頂祝いについては、読者の御想像におまかせしよう。

早池峰や 思い出深き 山の旅

晩茶  
(桧山)





## 焼酎の話

梅雨もあけ、暑くなってきましたと、ビールが恋しくなっ  
てまいります。冷たいビールを「グーッ」と飲む心地良さは、  
こうして書いているだけでたまらなくなる程です。夏は何とい  
ってもビールが主流ですが、世の中には夏でも清酒党の方々は  
いる様で、そういう方々のためにオン・ザ・ロック用の清酒など  
もでております。

ところで、最近では清酒よりも焼酎の伸びが大きいの  
うことを聞いております。実際に近所の酒屋を覗いてみま  
しても、イモ焼酎、ソバ焼酎、黒糖酒などがズラリと並ん  
でござりまして、今まで焼酎の代名詞ともなっておりました  
ホワイト・リカーなどは、ずっと隅の方に置かれています。

さて、この焼酎、酒税法上は「甲類」と「乙類」とに分  
かれていまして、「甲類」というのは、いわゆるホワイト  
・リカーのことで、連続蒸留法（パテント・スチル）によ  
って農産物原料から純粹アルコールを作り、それを水で割  
ったものであります。これに対して「乙類」は、伝統的な  
蒸留法（ポット・スチル）によって醸造酒のモロミ（発酵  
液）を直接蒸留したものであります。原料の風味をそのまま  
残しているのが特徴。「本格焼酎」といわれて、脚光を  
あびているのが、「乙類」なのであります。

この本格焼酎も二つに大別されます。

- ① 粕取り焼酎
- ② モロミ取り焼酎

「粕取り」といいますのは、酒粕の蒸留酒のことで、元  
来は清酒をつくる際の副産物でありました。戦後有名にな  
った「カストリ」はドブろくを蒸留したもので、まるで別  
物であります。「粕取り」は、現在では福岡県を中心とす  
る北九州一円で主に生産されております。

「モロミ取り」は、発酵させたモロミを蒸留して作られ  
るアルコールの総称、原料や製法の違いで、それぞれ地域  
的に個性のある焼酎ができております。普通、この「モロ  
ミ取り焼酎」が主に生産されている訳であります。

全国で消費される本格焼酎の6割を生産し、県内アルコ

ール消費量の9割をビールと焼酎で占めておりますのが、  
鹿児島県であります。県外向けには、「さつま白波」「さ  
つま無双」などの統一銘柄で出荷されております。

種類の多さでは宮崎県。イモ焼酎はもちろん、米、麦、  
アワ、ヒエ、ソバ、トウモロコシなどを原料とした焼酎が  
できております。

熊本県は、全体としては清酒圏ですが、人吉市を中心と  
した球磨地方では、ご存知「球磨焼酎」ができます。これ  
は、国内産の米を原料としております。

長崎県壱岐では、「日本のウイスキー」といわれる、大  
麦を原料とする焼酎が生産されております。

奄美諸島では、黒糖焼酎が生産されております。これは  
島産のサトウキビを原料とする黒糖を使い、そのモロミを  
蒸留したもので、別名「日本のラム」ともいわれ、「有泉」、  
「奄美」などがあります。

伊豆諸島では、薩摩出身の流人が伝えたというイモ焼酎  
がさかんであります。

そして、焼酎の元祖「泡盛」の生産地が沖縄であります。  
球磨焼酎と同じく米が原料ですが、タイ米を使い、製法も  
異なります。特に与那国島では、名物「花酒」がありますが、  
これは度数60°の泡盛のことであります。

この焼酎の功德とは、①清酒の半額で、②逆に三倍酔え  
て、③しかも二日酔いしない、ことであります。

飲み方は、お湯で割っても、水で割って爛にしても、夏  
向きにオン・ザ・ロックでも良いそうですが、筆者の経験  
では、初心者はオン・ザ・ロックが良い様です。確かに、  
二日酔いはしないし、ずい分とすなおな酔い方をしますが、  
それだけに前後不覚になるためのヤケ酒にはどうでありま  
しょうか。

これで酒の値段が上がらなければ、酒のみの天下な  
のですが、上がらないうちに飲みだめをしておきましょう。

(伊藤)

# 1 主 要

## 茨 城 県

年 月	世 帯 と 人 口			金 融 機 関 預 貸 金 (増 減)		手 形 交 換 高		百 貨 店 売 上 高	鉱 工 業 生 産 指 数 (総 合)
	世 帯	人 口	増 加 率	実 質 預 金	貸 出 金	枚 数	金 額		
	世 帯	人	%	億 円	円	千 枚	百 万 円	百 万 円	昭 45 年 = 100
昭和49年	568 243	2 294 443	19.52	2 172	1 398	1 537	1 065 008	34 915	202.8
50	590 459	2 342 173	16.68	3 385	1 472	1 618	1 127 165	41 237	201.2
51	602 414	2 378 220	15.39	3 639	1 626	2 028	1 405 144	46 418	225.6
51.6	599 518	2 365 092	1.36	578	265	142	113 113	3 832	224.6
7	600 575	2 368 307	1.21	184	200	154	111 384	4 353	252.3
8	601 015	2 371 176	1.65	16	123	202	125 827	3 325	228.2
9	601 764	2 375 088	1.32	553	191	201	128 214	3 305	225.0
10	602 414	2 378 220	1.18	14	147	186	123 320	3 846	220.6
11	603 315	2 381 016	1.39	657	6	218	140 063	3 819	224.7
12	604 195	2 384 316	1.32	948	524	253	174 315	6 601	235.9
52.1	604 857	2 387 470	1.10	△ 659	△ 140	182	141 675	3 939	213.7
2	605 532	2 390 093	0.96	△ 117	173	193	128 322	2 944	230.8
3	606 248	2 392 386	△1.08	850	258	214	149 342	4 145	250.7
4	606 220	2 389 793	3.04	△ 276	29	208	150 493	3 701	r 239.5
5	610 827	2 397 055	...	409	△ 141	211	145 910	3 580	231.9
資 料	県 統 計 課			日 本 銀 行 水 戸 事 務 所					

## 全 国

年 月	人 口		銀 行 卷 発 行 高	全 国 銀 行 勘 定		手 形 交 換 高		百 貨 店 売 上 高	鉱 工 業 生 産 指 数 (総 合)
	人 口	増 加 率		実 質 預 金	貸 出 金	枚 数	金 額		
	千 人	%	億 円 (年 月 末)	円	千 枚	億 円	億 円	昭 45 年 = 100	
昭和49年	110 049	12.32	116 678	748 631	796 139	413 253	6 639 385	36 820	126.4
50	111 937	17.15	126 171	855 129	887 672	407 201	7 530 833	40 651	110.5
51	113 086	10.26	140 200	969 248	986 722	419 296	8 178 295	44 085	p 125.3
51.5	112 547	1.19	108 989	902 314	910 127	34 303	626 572	3 216	123.4
6	112 681	0.77	116 477	911 120	923 394	34 846	680 031	3 335	125.7
7	112 768	0.43	116 310	907 008	933 380	38 569	691 776	4 563	127.3
8	112 816	1.44	113 168	911 388	939 990	34 089	660 328	3 068	126.7
9	112 979	0.95	113 064	935 405	950 884	34 159	696 859	2 978	127.1
10	113 086	0.87	113 559	926 631	959 782	32 084	644 576	3 688	127.3
11	113 184	0.77	116 004	952 088	964 698	36 840	715 008	3 726	130.4
12	113 272	0.26	140 200	969 248	986 722	43 806	857 376	7 004	130.3
52.1	113 301	...	120 364	949 787	987 146	30 412	669 507	3 064	130.7
2	...	...	123 404	953 326	992 906	32 609	647 998	2 899	128.4
3	...	...	123 583	990 486	1 007 132	36 333	791 793	3 886	r 131.2
4	...	...	123 304	985 781	1 002 656	34 882	762 860	3 487	p 132.4
資 料	総 理 府 統 計 局		日 本 銀 行 統 計 局				通 産 省		

(注) ※は年度数値。世帯と人口の各年の数値は10月1日現在。  
 全国の産業用大口電力消費量は9電力会社の計。

# 指 標

## 茨 城 県

調査産業 平均賃金	賃金指数	雇用指数	有 効 求人倍率	消 費 者 物 価 指 数 (水戸市)	家計消費支出 (水戸市) (勤労者)	産 業 用 電力消費量 (50KW以上)	建 築 着 工		年 月
							工 事 費 額 定 額	床 面 積	
...	86.6	100.1	※1.46	89.5	142 806	※ 3 149 395	358 695	5 639	昭和49年
166 470	100.0	100.0	※0.81	100.0	158 185	※ 3 730 588	400 541	5 360	
186 008	113.2	102.3	※1.04	109.1	177 776	※ 4 454 759	389 268	5 520	51
291 919	178.4	103.3	1.01	109.5	161 161	364 052	35 122	495	51.6
217 042	132.7	102.6	1.06	109.6	177 208	398 867	33 737	482	7
143 861	87.9	102.5	1.08	108.0	173 365	356 234	30 969	457	8
142 446	87.1	102.1	1.13	111.5	168 271	360 108	31 678	439	9
144 702	88.4	102.0	1.16	112.5	179 676	391 199	37 361	551	10
150 179	91.8	102.4	1.13	112.0	186 415	367 176	29 903	395	11
431 781	268.9	102.4	1.00	112.7	306 153	369 319	35 247	497	12
146 584	89.6	102.1	1.01	115.4	203 149	348 824	31 828	386	52.1
145 322	88.8	102.2	0.98	115.4	167 418	381 729	34 461	487	2
156 141	95.4	102.2	1.00	115.6	219 020	385 586	34 398	456	3
151 501	92.6	103.7	0.98	118.1	180 177	408 663	...	...	4
155 388	95.0	103.1	0.95	118.7	162 708	407 974	...	...	5
県 統 計 課			県 職 業 安 定 課	県 統 計 課	東 京 電 力 茨 城 支 店	建 築 指 導 課	資 料		

## 全 国

調査産業 平均賃金	賃金指数	雇用指数	有 効 求人倍率	消 費 者 物 価 指 数	家計消費支出 (勤労者)	産 業 用 大 口 電力消費量	建 築 着 工		年 月
							工 事 費 額 定 額	床 面 積	
154 967	87.1	102.0	1.20	89.4	142 203	※ 165 516	136 274	198 557	昭和49年
177 213	100.0	100.0	0.61	100.0	166 032	※ 164 836	146 766	196 292	
200 242	112.8	98.3	0.64	109.3	180 662	※ 178 080	p 164 082	p 215 474	51
149 525	83.9	99.1	0.63	108.9	164 305	14 293	12 527	17 007	51.5
270 428	151.7	98.9	0.65	109.1	177 402	15 084	14 230	19 187	6
274 889	154.2	98.7	0.67	109.7	192 508	15 690	17 058	22 530	7
168 823	94.7	98.2	0.67	108.8	179 311	14 913	15 489	20 122	8
153 406	86.0	98.1	0.66	111.7	162 523	15 056	14 189	18 285	9
157 431	88.3	98.1	0.64	112.4	173 493	15 326	14 017	18 028	10
166 443	93.3	98.1	0.62	112.4	172 512	15 021	13 371	17 292	11
472 868	265.2	97.9	0.63	113.6	280 128	14 990	14 976	18 811	12
162 077	90.9	p97.2	0.62	114.7	172 327	14 371	12 653	15 723	52.1
156 903	88.0	p96.8	0.60	115.3	161 845	14 044	11 780	14 655	2
r 177 470	99.5	p96.9	0.62	116.0	203 873	15 231	14 337	17 276	3
p 164 210	92.1	p99.1	0.59	117.9	...	p 14 638	...	...	4
労 働 省				総 理 府 統 計 局	通 産 省	建 設 省	資 料		



## 2 人 口

### 2-1 世帯、人口および人口移動

(単位：世帯、人)

年月日	世帯数	人 口			増減数	人 口 移 動				
		総 数	男	女		自 然 動 態		社 会 動 態		外国人 増 減
						出 生	死 亡	転 入	転 出	
49.10. 1	568 243	2 294 443	1 135 458	1 158 985	44 794	42 619	16 897	134 347	115 127	△ 58
50.10. 1	590 459	2 342 173	1 159 772	1 182 401	39 059	40 027	16 641	129 716	114 166	123
51.10. 1	602 414	2 378 220	1 178 688	1 199 532	35 593	39 596	16 645	124 726	112 044	△ 40
51. 6. 1	599 518	2 365 092	1 172 089	1 193 003	4 498	3 316	1 391	11 011	8 410	△ 28
7. 1	600 575	2 368 307	1 173 837	1 194 470	3 215	3 119	1 170	8 367	7 076	△ 25
8. 1	601 015	2 371 176	1 175 197	1 195 979	2 869	3 313	1 213	8 016	7 265	18
9. 1	601 764	2 375 088	1 177 118	1 197 970	3 912	3 353	1 159	9 363	7 674	29
10. 1	602 414	2 378 220	1 178 688	1 199 532	3 132	3 249	1 172	7 729	6 687	13
11. 1	603 315	2 381 016	1 180 265	1 200 751	2 796	3 196	1 236	8 360	7 494	△ 30
12. 1	604 195	2 384 316	1 182 070	1 202 246	3 300	3 304	1 452	9 264	7 835	19
52. 1. 1	604 857	2 387 470	1 183 618	1 203 852	3 154	3 308	1 504	9 396	7 986	△ 60
2. 1	605 532	2 390 093	1 185 031	1 205 062	2 623	3 231	1 660	7 936	6 914	30
3. 1	606 248	2 392 386	1 186 316	1 206 070	2 293	2 919	1 529	8 120	7 250	33
4. 1	606 220	2 389 793	1 184 986	1 204 807	△ 2 593	3 131	1 578	17 731	21 874	△ 3
5. 1	610 827	2 397 055	1 189 112	1 207 943	7 262	3 220	1 381	19 963	14 613	73

資料：県統計課

(注) 人口移動のうち (1) 昭和49年～昭和51年については各年の年間数値を示す。  
 (2) 昭和51年～昭和52年の月別人口移動については前月の月間数値を示す。

昭和50年10月1日の世帯数、人口については、国勢調査の概数である。

### 2-2 市町村別人口と世帯

(単位：人、世帯)

市 町 村	昭和50年 10月1日 人口総数	52 年 5 月 1 日			市 町 村	昭和50年 10月1日 人口総数	52 年 5 月 1 日		
		人口総数	人口増加	世 帯 数			人口総数	人口増加	世 帯 数
<b>総 数</b>	<b>2 342 173</b>	<b>2 397 055</b>	<b>7 189</b>	<b>610 827</b>	竜ヶ崎市	40 569	41 506	287	10 871
<b>市 部</b>	<b>1 160 359</b>	<b>1 185 376</b>	<b>4 080</b>	<b>322 900</b>	那珂湊市	33 144	33 144	32	8 494
<b>郡 部</b>	<b>1 181 813</b>	<b>1 211 679</b>	<b>3 109</b>	<b>287 927</b>	下妻市	29 234	29 753	84	7 165
水戸市	197 950	203 747	1 251	62 579	水海道市	38 820	39 343	23	9 362
日立市	202 387	201 984	453	56 337	常陸太田市	35 322	35 747	88	9 188
土浦市	104 031	106 816	219	30 128	勝田市	79 997	83 539	416	22 004
古河市	55 971	55 863	50	15 292	高萩市	30 982	31 332	47	8 647
石岡市	43 678	45 138	177	12 088	北茨城市	44 332	44 720	△ 16	11 854
下館市	57 778	58 705	94	14 712	笠間市	30 908	30 883	23	7 675
結城市	44 130	45 938	124	11 177	取手市	52 821	58 193	634	16 611
					岩井市	38 305	39 025	94	8 716

市町村	昭和50年 10月1日 人口総数	52年5月1日			市町村	昭和50年 10月1日 人口総数	52年5月1日		
		人口総数	人口増加	世帯数			人口総数	人口増加	世帯数
<b>東茨城郡</b>	<b>132 347</b>	<b>134 480</b>	<b>586</b>	<b>32 293</b>	<b>稲敷郡</b>	<b>126 946</b>	<b>132 385</b>	<b>405</b>	<b>31 943</b>
常澄村	9 247	9 412	4	2 069	江戸崎町	12 175	12 351	△ 7	3 014
茨城町	30 565	31 392	212	7 230	美浦村	8 161	8 358	25	1 934
小川町	17 250	17 506	51	4 108	阿見町	29 738	30 862	86	7 865
美野里町	17 160	17 956	62	4 307	牛久町	27 674	30 399	197	7 915
内原町	13 658	14 079	222	3 134	荃崎村	8 305	9 492	76	2 274
常北町	10 551	10 576	7	2 697	新利根村	8 590	8 616	9	1 897
桂村	6 897	6 832	4	1 762	河内村	11 657	11 614	6	2 537
御前山村	5 356	5 258	△ 26	1 344	桜川村	7 865	7 842	3	1 785
大洗町	21 663	21 469	50	5 642	東村	12 781	12 851	10	2 722
<b>西茨城郡</b>	<b>64 502</b>	<b>65 471</b>	<b>56</b>	<b>15 764</b>	<b>新治郡</b>	<b>92 761</b>	<b>97 744</b>	<b>541</b>	<b>22 685</b>
友部町	24 146	24 899	46	6 172	出島村	17 152	17 297	△ 5	4 003
岩間町	15 012	15 168	△ 14	3 654	玉里村	6 126	6 386	9	1 466
七会村	3 015	2 936	△ 20	667	八郷町	27 487	27 534	△ 16	6 082
岩瀬町	22 329	22 468	44	5 271	千代田村	18 634	19 258	86	4 806
<b>那珂郡</b>	<b>111 758</b>	<b>114 098</b>	<b>242</b>	<b>28 980</b>	新治村	8 548	8 616	△ 12	1 995
東海村	25 151	26 609	192	6 685	桜村	14 814	18 653	479	4 333
那珂町	34 213	35 490	70	9 095	<b>筑波郡</b>	<b>91 789</b>	<b>94 573</b>	<b>261</b>	<b>21 961</b>
瓜連町	7 117	7 068	1	1 706	谷田部町	22 225	23 002	91	5 422
大宮町	23 488	23 692	30	6 114	伊奈村	15 250	16 592	109	3 894
山方町	9 864	9 610	△ 43	2 491	谷和原村	10 152	10 220	4	2 242
美和村	6 150	6 003	△ 14	1 437	豊里町	10 898	11 001	15	2 449
緒川村	5 775	5 626	6	1 452	筑波町	22 011	22 146	△ 4	5 246
<b>久慈郡</b>	<b>55 969</b>	<b>54 710</b>	<b>△ 117</b>	<b>13 663</b>	大穂町	11 253	11 612	46	2 708
金砂郷村	11 310	11 094	△ 38	2 721	<b>真壁郡</b>	<b>74 368</b>	<b>75 663</b>	<b>23</b>	<b>17 282</b>
水府村	8 284	8 101	△ 23	1 998	関城町	17 838	15 164	26	3 368
里美村	5 508	5 379	12	1 350	明野町	16 518	16 973	9	3 897
大子町	30 867	30 136	△ 68	7 594	真壁町	20 685	20 686	△ 3	4 894
<b>多賀郡</b>	<b>10 127</b>	<b>10 635</b>	<b>32</b>	<b>2 728</b>	大和村	7 320	7 372	△ 10	1 583
十王町	10 127	10 635	32	2 728	協和町	15 007	15 468	1	3 540
<b>鹿島郡</b>	<b>157 291</b>	<b>160 660</b>	<b>549</b>	<b>38 659</b>	<b>結城郡</b>	<b>49 507</b>	<b>50 269</b>	<b>3</b>	<b>11 009</b>
旭村	10 213	10 253	9	2 219	八千代町	22 161	22 315	14	4 670
鉾田町	26 641	26 767	△ 4	6 438	千代川村	8 126	8 249	△ 24	1 849
大洋村	9 517	9 590	8	2 172	石下町	19 220	19 705	13	4 490
大野村	11 104	11 852	21	2 743	<b>猿島郡</b>	<b>100 052</b>	<b>103 194</b>	<b>312</b>	<b>22 777</b>
鹿島町	37 128	37 778	194	9 287	総和町	32 073	33 578	162	7 803
神栖町	29 972	31 027	146	7 906	五霞村	8 634	8 610	△ 12	1 729
波崎町	32 716	33 393	175	7 894	三和町	20 841	22 000	14	4 812
<b>行方郡</b>	<b>69 981</b>	<b>70 483</b>	<b>△ 10</b>	<b>16 715</b>	猿島町	14 157	14 299	29	2 849
麻生町	18 195	18 120	△ 37	4 117	境町	24 347	24 707	119	5 584
牛堀町	6 838	6 832	△ 12	1 651	<b>北相馬郡</b>	<b>44 416</b>	<b>47 314</b>	<b>226</b>	<b>11 468</b>
潮来町	20 670	21 114	55	5 355	守谷町	14 506	15 632	69	3 752
北浦村	10 919	11 033	13	2 517	藤代町	20 407	21 826	124	5 415
玉造町	13 359	13 384	△ 29	3 075	利根町	9 503	9 856	33	2 301

(注) (1) 50年10月1日については国勢調査の概数である。

(2) 「人口増加」は住民基本台帳に基づいたもので、外国人は含まない。

資料：県統計課

### 3 労 働

#### 3-1 産業別賃金指数

(昭和50年=100)

年 月	調 査 産 業 計		建 設 業	製 造 業	卸 売 小 売 業	金 融 保 險 業	運 輸 通 信 業	電 気・ガ 斯 水 道 熱 供 給 業	サ ー ビ ス 業
	サ ー ビ ス 業 を 含 む	サ ー ビ ス 業 を 除 く							
昭和49年	86.6	87.0	88.3	88.2	90.5	77.8	83.4	81.6	87.3
50	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
51	113.2	112.8	105.6	112.6	114.8	121.5	113.8	109.0	114.0
51.6	178.4	172.2	118.4	171.1	136.8	211.2	192.7	234.1	197.5
7	132.7	145.9	160.5	148.4	183.0	154.8	116.6	79.5	87.0
8	87.9	89.8	88.0	90.5	95.5	83.9	89.0	80.0	80.8
9	87.1	88.7	82.0	89.3	89.9	83.2	91.8	80.5	80.9
10	88.4	90.0	80.5	90.3	92.6	84.7	94.8	81.5	82.4
11	91.8	92.5	86.0	91.3	91.2	85.1	107.9	81.7	88.6
12	263.9	257.1	220.6	252.5	260.4	362.1	257.5	271.2	284.3
52.1	89.6	89.2	82.2	89.6	92.8	86.5	91.2	83.8	90.3
2	88.8	89.3	82.4	89.2	96.7	83.3	92.3	84.2	86.6
3	95.4	90.8	81.2	88.8	94.2	92.1	104.1	92.7	110.2
4	92.6	92.0	94.9	91.7	95.5	88.7	94.2	84.6	93.9
5	95.0	96.6	82.8	98.7	96.0	88.6	95.3	96.6	88.7

(注) 規模30人以上の事業所。

資料：県統計課

#### 3-2 産業別雇用指数

(昭和50年=100)

年 月	調 査 産 業 計		建 設 業	製 造 業	卸 売 小 売 業	金 融 保 險 業	運 輸 通 信 業	電 気・ガ 斯 水 道 熱 供 給 業	サ ー ビ ス 業
	サ ー ビ ス 業 を 含 む	サ ー ビ ス 業 を 除 く							
昭和49年	100.1	102.5	112.2	103.4	101.1	97.0	96.1	92.1	89.1
50	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
51	102.3	101.5	91.5	101.0	111.2	93.3	104.0	103.3	106.1
51.6	103.3	102.3	93.1	101.5	112.6	96.0	105.3	104.1	107.7
7	102.6	101.6	96.9	101.2	112.7	87.2	102.3	104.2	107.0
8	102.5	101.6	95.6	101.4	112.6	87.2	101.9	103.8	106.6
9	102.1	101.1	89.4	101.2	111.9	86.6	102.3	103.7	106.2
10	102.0	100.9	82.2	101.2	113.0	87.2	103.1	103.6	106.5
11	102.4	101.3	82.1	101.8	113.1	86.0	103.1	103.5	107.2
12	102.4	101.5	82.8	102.0	113.3	85.5	103.2	103.4	106.3
52.1	102.1	101.3	94.5	101.3	111.5	84.2	102.3	103.3	105.6
2	102.2	101.4	94.7	101.6	110.4	83.9	102.2	102.8	106.1
3	102.2	101.3	94.7	101.4	110.9	83.3	102.9	102.6	106.2
4	103.7	102.8	92.6	102.6	115.0	87.0	104.4	108.1	107.5
5	103.1	101.9	90.4	101.4	115.2	86.5	104.6	108.4	108.5

(注) 規模30人以上の事業所。

資料：県統計課

### 3-3 労働時間

(単位：1人1ヵ月当たり，時間)

年 月	調査産業計		建設業	製造業	卸 売 小 売 業	金 融 保 險 業	運 輸 通 信 業	電気・ガス 水 道 熱 供 給 業	サービス業	所 定 内 労 働 時 間
	サービス 業を含む	サービス 業を除く								調査産業計 (サービス 業を含む)
昭和49年	176.4	177.5	198.4	173.3	183.3	156.1	196.8	170.2	176.4	163.7
50	171.5	171.0	189.9	166.3	182.3	158.0	185.0	167.6	173.7	161.9
51	179.6	178.9	187.9	177.2	174.5	164.1	195.8	167.3	182.5	165.9
51.6	187.9	186.2	187.2	185.3	177.8	168.9	206.8	176.6	194.9	173.5
7	186.6	186.3	189.9	185.7	177.4	173.7	202.0	179.2	188.1	172.3
8	174.6	172.9	181.2	169.8	171.7	162.9	193.9	167.2	181.8	161.4
9	181.8	181.6	185.2	181.7	171.2	162.5	198.0	161.2	182.5	167.3
10	180.1	178.9	179.2	177.9	167.6	160.3	203.2	165.2	185.5	165.4
11	186.1	186.1	192.2	186.9	174.6	161.5	201.1	161.7	185.7	171.0
12	105.7	106.9	105.0	107.7	100.5	110.9	109.2	103.6	100.8	103.0
52.1	168.1	166.9	187.6	162.6	168.3	155.5	187.6	160.9	173.7	155.7
2	179.5	179.3	194.0	178.9	172.0	151.1	194.5	156.2	180.7	165.0
3	177.2	175.4	191.3	172.5	162.2	171.3	199.8	173.3	184.9	162.4
4	186.9	186.9	191.7	186.0	179.1	175.5	204.5	170.1	186.5	172.5
5	173.5	171.4	179.6	169.0	164.8	164.1	193.8	161.4	181.7	160.2

(注) 規模30人以上の事業所。

資料：県統計課

### 3-4 職業紹介

(単位：件)

年 月	一 般 職 業 紹 介 (パートタイムを含まない)						
	新規求人数 (A)	新規求職 申込件数(B)	有効求人数 (月平均) (C)	有効求職者数 (月平均) (D)	就職件数	新規求人倍率 (A/B)	有効求人倍率 (C/D)
昭和49年度	70 871	51 939	16 958	11 601	21 859	1.37	1.46
50	62 967	50 505	13 700	16 924	17 544	1.25	0.81
51	69 458	51 684	17 109	16 325	17 732	1.34	1.04
51.6	5 814	4 083	17 243	17 134	1 487	1.42	1.01
7	6 289	4 098	17 919	16 832	1 526	1.53	1.06
8	6 945	4 188	17 834	16 548	1 397	1.66	1.08
9	7 347	4 313	18 799	16 589	1 541	1.70	1.13
10	6 107	3 977	18 584	15 983	1 459	1.54	1.16
11	4 652	3 618	17 298	15 351	1 383	1.29	1.13
12	3 351	3 205	14 514	14 452	1 167	1.05	1.00
52.1	6 433	5 106	15 703	15 607	1 583	1.26	1.01
2	4 847	4 585	15 583	15 953	1 528	1.06	0.98
3	5 420	4 969	16 113	16 189	1 658	1.09	1.00
4	5 022	5 393	16 439	16 790	1 457	0.93	0.98
5	4 786	4 928	16 407	17 344	1 456	0.97	0.95

(注) 学卒・日雇・パートタイムは除く。

資料：県職業安定課

# 4 農 業

## 農産物の平均販売価格

(単位：円)

年 月	うるち米 (自由売) (玄米60kg)	生 乳 (飲用10kg)	鶏 卵 (10kg)	豚 肉 (生体10kg)	肉 用 牛 (去勢肥育) (和牛・壮舎)	乳 用 牛 (めす、生後 6カ月 ホルスタイン 純種)	ブロイラー (生体10kg)
昭和49年12月末	13 522	885	3 340	4 101	9 000	69 000	2 917
50	13 667	936	2 765	4 780	10 450	101 667	3 517
51	16 133	1 046	2 890	3 218	10 000	83 333	3 183
51.5	13 750	1 049	2 353	4 550	9 850	100 000	3 083
6	13 500	1 052	2 310	4 804	9 850	100 000	3 000
7	14 167	1 050	2 527	4 745	9 900	100 000	2 967
8	14 000	1 046	2 405	4 425	9 900	93 333	3 067
9	15 233	1 047	2 680	4 167	9 950	93 333	3 100
10	15 400	1 049	2 680	3 513	9 950	86 667	3 100
11	16 067	1 047	2 539	3 286	10 000	83 333	3 117
12	16 133	1 046	2 890	3 218	10 000	83 333	3 183
52.1	16 200	1 016	2 895	3 302	10 000	83 333	3 167
2	16 200	1 021	3 195	3 819	10 100	76 667	3 167
3	16 200	1 024	3 320	4 162	10 150	76 667	3 217
4	...	...	...	...	...	...	...

年 月	だいこん (1kg)	にんじん (1kg)	はくさい (1kg)	キャベツ (1kg)	な す (1kg)	きゅうり (1kg)	ピーマン (1kg)
昭和49年12月末	26	53	25	30	373	315	329
50	40	69	23	105	423	358	306
51	27	30	16	32	409	370	321
51.5	55	133	61	65	281	166	295
6	44	123	63	40	297	149	286
7	38	127	39	47	137	85	194
8	51	102	58	18	105	131	100
9	65	94	63	32	144	151	131
10	37	54	30	24	166	156	241
11	24	43	17	27	448	233	308
12	27	30	16	32	409	370	321
52.1	34	36	28	74	373	254	341
2	46	38	37	122	367	288	527
3	44	33	34	91	352	234	338
4	61	44	49	85	346	197	273

(注) (1) 価格は、それぞれの代表生産地における価格である。  
 (2) 野菜は、水戸市公設地方卸売市場の卸売価格による。

資料：農林省茨城統計情報事務所  
 水戸市公設地方卸売市場

# 5 鋳 工 業

鋳工業生産指数

(昭和45年=100)

年 月	産業総合		公益事業		鋳工業		鋳業		製造工業		鉄鋼業		非鉄金属工業		金属製品工業		機械工業		一般機械		電気機械	
	品目数109		2		107		6		101		9		5		5		41		7		26	
	ウェイト 10 000.0		228.2		9 771.8		144.1		9 627.7		567.6		1 201.1		355.3		4 523.4		1 161.7		2 938.3	
昭和49年	202.8	2 143.7	157.5	45.7	159.2	352.2	124.4	200.4	124.3	168.8	111.8											
50	201.2	2 685.8	143.2	55.0	144.5	309.6	98.4	200.8	116.7	189.8	95.8											
51	225.6	2 558.4	171.1	50.0	172.9	361.2	132.7	205.8	156.7	284.8	119.5											
51.6	224.6	2 438.0	172.9	46.8	174.8	377.4	143.7	192.0	160.5	305.9	117.0											
7	252.3	2 770.3	193.5	49.1	195.7	403.3	147.5	190.7	185.1	362.0	131.4											
8	228.2	2 777.0	168.6	47.4	170.5	385.1	123.5	184.2	139.1	251.1	105.7											
9	225.0	2 476.3	172.4	50.2	174.2	358.5	131.2	215.8	159.6	235.0	140.4											
10	220.6	2 686.8	163.0	46.8	164.7	421.1	140.3	211.3	130.7	195.3	115.2											
11	224.7	2 727.8	166.2	53.7	167.9	395.0	114.1	222.0	146.6	206.0	134.3											
12	235.9	2 794.1	176.2	54.7	178.0	400.2	135.7	239.0	148.6	239.3	125.8											
52.1	213.7	2 832.2	152.6	51.4	154.1	372.7	128.6	472.9	121.2	169.0	113.7											
2	230.8	3 218.7	161.0	57.6	162.5	327.5	133.0	485.0	127.9	186.7	115.0											
3	250.7	3 274.2	180.1	67.6	181.8	347.0	147.1	546.8	141.3	198.1	127.0											
4	r 239.5	2 726.8	r 181.4	50.0	r 183.4	334.1	145.2	486.0	144.5	219.7	127.2											
5	231.9	2 634.4	175.8	52.9	177.6	324.1	131.5	433.5	144.4	244.3	118.2											

年 月	鋳 工 業																	
	製 造 工 業																	
	機 械 工 業		窯 業 石 業		化学工業		石 油 炭 業		パ ル プ 紙 ・ 紙 加 工 工 業		織 維 工 業		木 製 材 品 業		食 料 品 業		そ の 他 工 業	
	輸 送 機 械	精 密 機 械	窯 土 製 品 工 業	石 業 工 業	化学工業	石 油 炭 製 品 工 業	パ ル プ 紙 ・ 紙 加 工 工 業	織 維 工 業	木 製 材 品 業	食 料 品 業	そ の 他 工 業							
	品目数	5	3	2	18	2	2	3	1	7	6							
	ウェイト	273.7	149.7	627.6	157.1	168.7	162.2	130.4	246.9	779.0	708.4							
昭和49年	114.3	41.0	109.8	598.7	248.0	145.4	94.5	93.5	248.8	130.1								
50	85.0	16.9	107.2	567.9	240.9	153.3	87.6	91.9	235.3	87.4								
51	84.7	25.6	116.4	648.0	241.8	202.5	83.4	119.9	226.9	73.8								
51.6	89.4	15.4	107.7	286.8	159.3	201.5	93.8	112.1	309.4	68.6								
7	101.2	18.5	123.2	545.1	140.0	211.2	89.6	120.2	344.3	59.9								
8	85.6	25.2	110.9	760.6	263.5	194.1	82.3	120.6	278.3	80.4								
9	109.7	43.0	113.2	728.3	225.8	209.0	78.3	116.4	210.4	80.7								
10	72.0	40.1	118.9	694.0	255.4	221.3	77.1	99.3	195.6	88.4								
11	83.6	42.6	124.1	656.4	260.3	195.7	75.2	110.8	201.3	88.5								
12	70.8	36.4	135.7	658.8	284.2	191.6	77.8	127.1	246.7	91.5								
52.1	46.5	33.7	73.9	690.8	252.0	185.9	55.3	121.3	108.4	73.3								
2	69.1	32.4	125.8	680.3	253.9	195.1	66.3	118.7	147.2	78.6								
3	112.1	35.9	134.5	725.7	260.9	209.8	66.5	99.8	226.8	79.9								
4	69.6	37.0	116.1	r 780.5	255.2	198.5	63.0	94.9	272.5	85.5								
5	66.3	27.1	114.4	743.4	253.4	212.4	61.4	120.6	256.0	81.5								

資料：県統計課

## 6 建築

### 建築主別建築着工

(単位：百万円、千㎡)

年 月	総 数		建 築 主					
			官 公 庁		会 社 其 他 の 法 人		個 人	
	床 面 積	工 事 費 予 定 額	床 面 積	工 事 費 予 定 額	床 面 積	工 事 費 予 定 額	床 面 積	工 事 費 予 定 額
昭和49年	5 639	358 695	811	74 969	1 864	114 639	2 964	169 088
50	5 360	400 541	961	118 801	1 391	96 043	3 007	185 696
51	5 520	389 268	802	84 178	1 443	99 371	3 275	205 719
51.3	513	40 856	113	16 747	110	6 537	290	17 571
4	495	32 629	70	6 110	115	7 353	310	19 166
5	507	35 344	78	8 140	152	10 417	277	16 787
6	495	35 122	74	7 450	145	10 155	276	17 517
7	482	33 737	56	6 459	83	5 252	343	22 026
8	457	30 969	50	4 813	123	8 268	284	17 888
9	439	31 678	85	8 360	121	8 566	233	14 752
10	551	37 361	71	5 783	230	16 502	250	15 076
11	395	29 903	60	6 023	104	8 975	231	14 905
12	497	35 247	63	6 149	98	6 869	336	22 229
52.1	386	31 828	53	7 317	114	9 846	219	14 666
2	487	34 461	91	8 965	137	8 733	259	16 763

(注) 官公庁とは、国、都道府県、市町村を加えたものである。

資料：県建築指導課

## 7 電 力

### 産業別電力消費量

(単位：MWH)

年度・月	総 数	農 林 ・ 水 産 養 殖 業	鉱 業	建 設 業	製 造 業	運 輸 通 信 業	電 気 ・ ガ ス 水 道 業	そ の 他 の 産 業
昭和49年度	3 149 395	5 755	49 734	34 524	2 717 440	140 085	98 370	103 487
50	3 730 583	4 956	48 650	41 317	3 253 192	149 494	104 476	128 498
51	4 454 759	5 715	51 163	37 280	3 902 439	154 868	109 289	194 005
51.6	364 052	382	4 240	2 652	320 572	11 965	8 527	15 714
7	398 867	385	4 258	3 020	353 310	12 720	8 932	16 242
8	356 234	441	4 163	3 028	311 177	13 347	9 631	14 447
9	360 108	478	4 247	3 218	316 594	12 374	9 228	13 969
10	391 199	422	4 388	3 081	347 299	12 663	9 019	14 327
11	367 176	418	4 331	3 174	320 493	12 785	8 796	17 179
12	369 319	485	4 397	3 404	320 385	14 007	9 114	17 527
52.1	348 824	586	4 470	3 296	298 969	14 221	9 655	17 627
2	381 729	608	4 228	3 299	331 615	12 805	9 065	20 109
3	385 586	573	4 366	3 249	336 047	13 547	9 314	18 490
4	408 663	592	4 251	3 067	361 975	11 836	9 556	17 386
5	407 974	518	4 176	2 199	359 514	12 043	9 414	20 110

(注) 数値は東京電力茨城支店の50KW以上の電力販売量である。なお、東電以外の自家発電は含まれない。資料：東京電力茨城支店

# 8 金 融

## 金融機関別実質預金・貸出残高

(単位：億円)

年 月	総 額		銀 行		相 互 銀 行		信 用 金 庫		信 用 組 合	
	預 金	貸 出	預 金	貸 出	預 金	貸 出	預 金	貸 出	預 金	貸 出
昭和49年末	17 392	10 705	9 829	5 624	1 934	1 396	1 703	1 264	1 283	934
50	20 715	12 177	11 745	6 357	2 240	1 614	2 005	1 453	1 488	1 076
51	23 959	13 746	13 588	7 096	2 535	1 829	2 333	1 704	1 727	1 259
51.5	21 017	12 299	12 217	6 320	2 255	1 663	2 043	1 483	1 489	1 079
6	21 597	12 564	12 548	6 486	2 359	1 703	2 083	1 505	1 520	1 094
7	21 771	12 756	12 560	6 578	2 329	1 718	2 115	1 538	1 535	1 114
8	21 787	12 879	12 575	6 644	2 339	1 725	2 142	1 555	1 551	1 132
9	22 340	13 070	12 936	6 722	2 427	1 762	2 147	1 570	1 587	1 167
10	22 355	13 217	12 752	6 816	2 386	1 774	2 163	1 595	1 588	1 167
11	23 011	13 223	13 261	6 808	2 403	1 761	2 196	1 630	1 604	1 191
12	23 959	13 746	13 588	7 096	2 535	1 829	2 333	1 704	1 727	1 259
52.1	23 300	13 606	13 250	7 056	2 449	1 797	2 296	1 678	1 671	1 233
2	23 183	13 779	13 209	7 133	2 439	1 820	2 289	1 703	1 667	1 254
3	24 033	14 038	13 985	7 234	2 505	1 861	2 302	1 735	1 704	1 288
4	23 757	14 067	13 744	7 299	2 482	1 831	2 315	1 726	1 693	1 273

年 月	労 金		商 工 中 金		農 協		漁 協		郵 便 貯 金 (総額には含まない)
	預 金	貸 出	預 金	貸 出	預 金	貸 出	預 金	貸 出	
昭和49年末	228	187	71	221	2 308	1 003	37	77	453
50	296	213	88	286	2 808	1 099	45	79	449
51	387	254	99	347	3 233	1 181	57	78	540
51.5	304	221	101	297	2 559	1 159	50	76	245
6	329	222	100	307	2 605	1 174	52	72	338
7	349	229	94	315	2 745	1 190	53	75	335
8	337	231	96	320	2 696	1 198	51	74	249
9	337	236	99	327	2 756	1 213	52	72	250
10	339	243	106	334	2 963	1 216	57	70	283
11	341	247	114	347	2 030	1 172	61	67	261
12	387	254	99	347	3 233	1 181	57	78	540
52.1	383	253	100	345	3 099	1 166	54	78	299
2	383	259	110	347	3 031	1 182	56	82	236
3	394	269	101	346	2 970	1 212	73	93	299
4	390	275	106	343	2 967	1 235	60	84	327

資料：日本銀行水戸事務所  
水戸郵便局調査課



# 9 物 価

水戸市の消費者物価指数

(昭和50年=100)

年 月	総 合	対 前 月 率	対 前 年	食 料	うち主食	副 食 品	住 居	光 熱	被 服
		(%)	(同月) 上 昇 率 (%)						
昭和49年	89.5	—	25.8	88.4	84.8	91.4	91.3	85.8	97.0
50	100.0	—	11.7	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
51	109.1	—	9.1	109.1	111.5	109.0	106.1	106.3	109.1
51.6	109.5	0.9	9.7	108.5	109.2	107.2	105.8	102.0	114.6
7	109.6	0.1	9.2	109.1	109.3	106.7	106.8	105.2	112.5
8	108.0	△ 1.5	8.0	106.7	110.2	105.2	107.1	105.3	105.4
9	111.5	3.2	10.0	112.3	117.0	111.4	108.1	113.1	111.8
10	112.5	0.9	8.8	113.3	117.2	110.0	108.8	113.1	114.2
11	112.0	△ 0.4	9.2	110.9	118.6	108.0	108.9	113.1	115.0
12	112.7	0.6	9.4	109.8	118.5	107.0	109.0	113.3	113.7
52.1	115.4	2.4	9.5	116.1	118.6	113.9	109.3	113.3	112.7
2	115.4	0.0	9.1	115.8	118.6	117.3	109.6	113.3	112.2
3	115.6	0.2	9.2	115.5	118.7	116.0	109.7	113.3	114.5
4	118.1	2.2	9.8	117.8	117.7	120.0	112.5	113.3	116.3
5	118.7	0.5	9.4	115.8	118.1	115.1	112.7	113.3	122.9

年 月	雑 費	う ち	理 容	交 通	自 動 車 等	教 育	文 房 具	教 養 娯 楽
		保 健 医 療	衛 生	通 信	関 係 費			
昭和49年	87.1	88.4	90.1	84.9	91.0	81.2	95.5	85.8
50	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
51	110.2	105.1	111.3	110.3	102.9	120.6	103.7	107.9
51.6	110.6	106.0	111.1	106.6	102.1	125.5	102.5	109.1
7	110.4	106.0	110.9	106.6	105.1	125.5	104.4	107.4
8	111.2	106.0	111.2	106.6	104.7	125.5	104.4	109.5
9	111.2	106.0	113.7	106.6	103.4	125.5	104.4	109.4
10	111.6	106.6	113.7	106.6	103.4	126.1	104.4	110.2
11	112.8	107.2	116.0	115.9	102.7	126.1	104.4	109.5
12	117.0	107.2	116.3	144.9	102.1	126.1	104.4	109.9
52.1	117.6	107.2	122.9	144.9	102.4	126.1	108.4	109.6
2	118.2	108.6	122.9	144.9	102.4	126.1	111.9	110.7
3	118.2	108.6	122.8	144.9	102.5	126.1	111.9	110.8
4	121.3	108.6	124.5	153.1	102.8	141.4	113.9	111.7
5	122.9	108.8	124.7	154.3	102.8	143.8	113.9	114.8

資料：県統計課

## 10 経 済

年 月	財政資金(百万円)		銀行券受払高(百万円)		手 形 交 換 高 (千枚)	不 渡 手 形 (枚)	信用保証(件)		証券取引高(百万円)	
	収 入	支 払	受 入	払 渡			保証承諾	代位弁済	株 式	公 社 債
昭和49年	356 807	421 391	364 271	400 205	1 537	10 273	18 923	207	169 051	81 326
50	399 675	514 349	406 359	446 955	1 618	10 724	22 466	317	178 379	69 862
51	440 290	598 922	438 614	489 408	2 028	14 089	23 323	451	261 852	133 834
51.7	40 717	41 490	38 157	32 863	154	872	2 139	40	17 418	12 772
8	36 225	22 459	34 539	29 437	202	1 642	1 702	50	26 205	14 876
9	35 956	66 130	29 025	32 939	201	1 699	1 706	41	17 632	17 573
10	29 237	51 709	27 075	32 850	186	1 514	1 831	13	17 936	13 007
11	38 608	82 857	26 306	35 674	218	2 103	2 165	49	22 926	18 672
12	48 193	55 325	55 426	99 595	253	1 701	3 395	33	33 656	9 945
52.1	41 680	22 254	63 450	25 897	182	1 335	1 113	18	27 671	11 730
2	31 555	22 740	32 636	38 413	193	1 561	1 563	58	20 678	19 765
3	53 421	81 770	33 698	40 117	214	1 741	1 912	59	19 251	19 333
4	37 532	71 274	33 806	33 783	208	1 723	1 633	71	18 196	11 877
5	51 716	47 751	36 640	33 270	211	1 751	1 739	30	16 594	31 317
6	42 590	81 891	43 099	57 485	212	1 507	1 942	33	...	...

資料：日本銀行水戸事務所

## 11 消費生活相談

(単位：件)

年 月	受付件数	内 容 別 延 件 数									
		安 全 衛 生	品 質 機 能	価 格 金 額	表 示・ 広 告 装 包	販 売 方 法 契 約 サ ー ビ ス	ク リ ー ニ ン グ	買 物	そ の 他		
昭和49年	2 354	538	481	168	138	205	33	41	750		
50	2 944	694	790	122	159	314	61	68	922		
51	2 441	763	660	113	91	350	83	38	477		
51.5	148	42	40	6	12	21	5	5	35		
6	207	52	80	7	3	23	6	7	49		
7	186	57	56	10	4	26	3	2	42		
8	209	60	61	14	11	26	8	1	48		
9	231	92	65	14	9	28	8	9	26		
10	278	105	69	14	7	37	9	6	50		
11	177	52	44	11	6	32	8	-	27		
12	163	54	32	10	3	32	4	1	27		
52.1	196	46	62	9	10	41	4	2	22		
2	281	83	60	10	14	34	10	-	69		
3	205	66	51	6	3	35	8	2	34		
4	195	56	42	10	6	26	9	-	26		

資料：茨城県消費生活センター

# 12 家 計

## 12-1 家計主要指標

(単位：円,%)

年 月	勤 勞 者 世 帯								全 世 帯		消 費 者 物 価 指 数
	実 取 入	(1) 可 処 分 所 得	消 費 支 出	(2) 黒 字	貯 蓄 純 増	(3) 平 均 消 費 性 向	(4) 実 質 実 取 入 指 数	(4) 実 質 消 費 支 出 指 数	消 費 支 出	(5) エ ル ゲ ル 係 数	
水 戸 市											
昭和49年	205 792	187 865	142 806	45 059	27 634	76.0	106.5	100.9	132 200	30.5	89.5
50	215 932	197 019	158 185	38 834	27 159	80.3	100.0	100.0	152 207	30.8	100.0
51	261 162	235 528	177 776	57 752	42 802	75.5	110.9	103.0	178 217	29.1	109.1
51.6	367 428	332 074	161 161	170 913	134 841	48.5	155.4	93.0	157 710	32.4	109.5
7	275 831	246 349	177 208	69 141	57 315	71.9	116.6	102.2	170 579	31.3	109.6
8	190 465	171 121	173 365	△ 2 243	△ 5 003	101.3	81.7	101.5	170 571	32.5	108.0
9	192 102	170 326	168 271	2 055	△12 159	98.8	79.8	95.4	161 419	30.9	111.5
10	218 595	195 547	179 676	15 871	360	91.9	90.0	101.0	173 169	30.3	112.5
11	249 881	223 633	186 415	37 218	21 121	83.4	103.3	105.2	181 156	27.9	112.0
12	650 250	596 293	306 153	290 140	210 322	51.3	267.2	171.7	291 111	25.2	112.7
52.1	217 046	194 200	203 149	△ 8 948	4 737	104.6	87.1	111.3	196 107	24.9	115.4
2	214 854	192 772	167 418	25 354	10 295	86.8	86.2	91.7	159 790	31.6	115.4
3	256 783	229 797	219 020	10 777	1 501	95.3	102.9	119.8	195 621	27.5	115.6
4	203 398	182 145	180 177	1 969	△12 741	98.9	79.8	96.4	171 851	28.6	118.1
5	203 883	178 752	162 708	16 043	10 575	91.0	79.5	86.7	153 064	32.3	118.7
全 国											
昭和49年	205 792	187 825	142 203	45 622	30 211	75.7	97.4	95.7	136 024	32.6	89.4
50	236 152	215 508	166 032	49 476	31 875	77.0	100.0	100.0	157 982	32.0	100.0
51	258 237	233 461	180 662	52 799	32 286	77.4	100.0	99.6	174 790	31.6	109.3
51.6	330 675	299 912	177 402	122 510	85 213	59.2	128.3	97.9	169 180	32.5	109.1
7	305 943	277 937	192 508	85 429	59 112	69.3	118.1	105.7	181 639	31.5	109.7
8	223 200	201 754	179 311	22 443	10 050	88.9	86.9	99.3	175 447	33.0	108.8
9	207 873	186 669	162 523	24 146	9 488	87.1	78.8	87.6	159 416	33.5	111.7
10	214 139	192 660	173 493	19 167	9 918	90.1	80.7	93.0	171 531	32.6	112.4
11	216 910	194 195	172 512	21 683	7 459	88.8	81.8	92.4	171 555	31.3	112.4
12	591 338	540 972	280 128	260 844	183 217	51.8	220.4	148.5	261 001	28.9	113.6
52.1	211 091	189 083	172 327	16 756	28 588	91.1	77.9	90.5	171 367	27.6	114.7
2	210 981	189 161	161 845	27 316	2 440	85.6	77.5	84.6	158 263	32.6	115.3
3	253 777	226 994	203 873	23 121	11 564	89.8	92.6	105.9	197 641	29.3	116.0
4	228 921	202 114	195 610	6 504	△13 931	96.8	82.2	99.9	191 271	29.7	117.9
5	225 920	196 907	182 904	14 003	5 360	92.9	80.4	92.6	179 817	32.8	119.0

(注) (1) 実収入-非消費支出 (2) 可処分所得-消費支出  
 (3) 消費支出÷可処分所得 (4) 当該項目(50年=100)÷消費者物価指数  
 (5) 食料費÷消費支出

資料：総理府統計局

12-2 1カ月当たりの収入（水戸市・勤労者世帯）

（単位：世帯、人、歳、円）

年月	集計 世帯数	世帯 人員	有業 人員	世帯主 の年齢	収入 総額	収入				実収入 以外の 収入	前月 からの 繰入金
						実収入	勤め先 収入	事業・ 内職 収入	他の 実収入		
昭和49年	60	3.95	1.45	41.1	315 154	205 792	189 991	5 437	10 364	47 771	61 592
50	63	3.92	1.36	40.5	331 000	215 932	206 190	2 061	7 681	49 367	65 700
51	65	3.62	1.30	41.6	398 315	261 162	243 709	4 056	13 397	64 499	72 653
51.6	66	3.62	1.27	42.1	482 141	367 428	345 491	4 186	17 751	49 963	64 750
7	66	3.61	1.30	42.4	423 119	275 831	262 202	5 301	8 328	68 042	79 246
8	66	3.50	1.30	42.2	346 480	190 465	180 266	2 153	8 046	77 689	78 327
9	62	3.56	1.29	42.7	328 203	192 102	183 674	3 419	5 008	72 079	64 023
10	66	3.52	1.32	42.2	355 182	218 595	201 913	5 151	11 531	67 878	68 709
11	63	3.70	1.43	41.8	385 343	249 881	226 824	7 019	16 038	66 859	68 602
12	68	3.72	1.38	42.1	817 062	650 250	623 860	8 491	17 900	98 292	68 519
52.1	67	3.73	1.36	41.4	373 016	217 046	197 879	3 231	15 936	65 842	90 127
2	66	3.73	1.33	41.7	344 084	214 854	198 757	7 361	8 737	57 898	71 332
3	66	3.70	1.30	41.7	432 778	256 783	231 088	6 654	19 041	102 856	73 140
4	65	3.62	1.26	40.4	334 239	203 398	190 053	2 185	11 160	73 160	57 681
5	65	3.49	1.22	40.0	314 330	203 883	194 911	2 267	6 705	50 567	59 879

（注）集計世帯数、世帯人員、有業人員、世帯主年齢は支出にも該当する。

資料：総理府統計局

12-3 1カ月1世帯当たりの支出（水戸市・勤労者世帯）

（単位：円）

年月	実支出	消費支出						非消費 支出	実支出 以外の 支出	繰越金	現物 総額
		計	食料費	住居費	光熱費	被服費	雑費				
昭和49年	160 734	142 806	41 585	12 951	5 073	15 942	67 255	17 927	89 385	65 036	8 101
50	177 098	158 185	47 170	13 461	6 164	16 473	74 917	18 913	86 349	67 552	7 978
51	203 411	177 776	50 188	17 189	6 243	18 664	85 493	25 634	120 910	73 994	11 720
51.6	196 514	161 161	48 404	18 855	4 893	18 444	70 565	35 353	208 968	76 658	8 066
7	206 690	177 208	52 329	22 194	4 443	21 370	76 872	29 483	142 543	73 886	12 566
8	192 709	173 365	53 376	12 643	4 738	14 699	87 910	19 344	85 109	68 662	10 255
9	190 047	168 271	48 487	10 719	4 239	18 661	86 164	21 776	69 859	68 298	7 581
10	202 724	179 676	50 193	21 740	6 054	18 327	83 362	23 048	81 699	70 759	7 944
11	212 663	186 415	50 162	19 995	6 481	19 427	90 351	26 248	93 982	78 698	11 980
12	363 310	306 153	71 732	40 590	9 835	38 210	145 786	57 157	364 231	89 521	25 499
52.1	225 995	203 149	48 237	11 670	9 544	18 820	114 877	22 846	79 308	67 713	16 540
2	189 500	167 418	50 440	14 419	10 565	14 014	77 980	22 082	78 546	76 037	5 713
3	246 006	219 020	55 327	16 928	9 445	20 345	116 975	26 986	124 426	62 346	6 374
4	201 429	180 177	51 554	13 663	7 476	14 538	92 945	21 253	68 996	63 814	7 211
5	187 840	162 708	49 916	16 125	6 222	17 331	73 114	25 131	68 260	58 230	6 212

資料：総理府統計局

# 13 レジャー

(単位：円，件)

年 月	勤 労 者 世 帯 (水戸市)		旅 券 交 付 件 数 (観光訪問・その 他個人的目的)	旅 行	
	外 食 費	教 養 娛 楽 費 (印刷物・聴視観 覧料・旅行費等)		国 内 (総合旅行・パック)	外 国 (パック)
昭和49年	4 438	12 568	16 390	—	—
50	5 334	13 475	16 588	—	—
51	p 7 664	p 14 953	21 592	3 232	446
51.5	6 900	12 846	1 645	193	44
6	7 220	10 880	1 600	151	27
7	7 744	13 177	2 011	339	21
8	7 902	16 802	2 151	416	13
9	6 404	12 296	2 476	207	23
10	6 559	13 868	2 217	466	71
11	7 690	12 091	1 450	369	56
12	9 936	25 734	2 146	144	48
52.1	8 813	14 290	2 312	107	23
2	7 236	13 162	2 135	…	…
3	7 089	22 103	2 602	…	…
4	6 240	29 378	2 301	…	…

(注) 「外食」「教養娯楽」は、抽出調査によるため、対象は水戸市内の少数世帯に限られている。 資料：総理府統計局，県民福祉課 日本交通公社水戸支店

# 14 保 健 相 談

保健婦活動状況

(単位：世帯，人，回)

年 月	家 庭 訪 問		家 庭 訪 問 以 外 (実施回数)			
	被訪問世帯数	被訪問延人員	健 康 相 談	集 団 検 診 集 団 保 健 指 導	予 防 接 種	衛 生 教 育
昭和49年	80 964	100 424	3 555	4 031	5	2 178
50	87 354	107 835	3 600	3 890	4	2 559
51	p 89 345	p 112 554	p 3 571	p 3 933	p 20	p 2 644
51.4	…	…	…	…	…	…
5	…	…	…	…	…	…
6	24 031	30 665	859	778	2	614
7	…	…	…	…	…	…
8	…	…	…	…	…	…
9	20 599	26 393	907	1 316	15	785
10	…	…	…	…	…	…
11	…	…	…	…	…	…
12	22 321	27 474	901	917	3	628
52.1	…	…	…	…	…	…
2	…	…	…	…	…	…
3	21 824	26 599	892	857	—	697

資料：県医務課

# 15 交通 事 故

交通事故発生件数

(単位：人、件)

年 月	発生件数	死 者	負 傷 者	原 因 別 発 生 件 数							
				安全運転義務違反			酒 酔 い	最 高 速 度 違 反	追 越 し	徐 行	一 時 停 止
				わ き 前 不 注 意	見 方 注 意	安 全 速 度					
昭和49年	11 850	480	16 114	3 025	1 414	341	1 072	322	482	594	397
50	11 515	425	15 493	2 929	976	521	934	750	393	606	420
51	11 040	374	14 877	2 888	847	532	839	631	468	702	416
51.6	899	26	1 193	200	86	49	48	55	50	79	39
7	991	39	1 390	278	75	50	73	51	29	74	41
8	1 015	37	1 423	264	90	48	61	79	31	77	41
9	817	32	1 087	220	72	40	55	50	30	60	21
10	901	16	1 206	225	75	27	77	70	36	62	26
11	923	22	1 201	262	60	42	88	43	39	70	25
12	969	35	1 331	298	76	31	83	51	41	56	33
52.1	837	29	1 174	237	75	62	83	44	26	39	40
2	720	22	962	220	54	29	58	31	27	51	29
3	863	33	1 133	270	75	44	69	59	32	43	37
4	924	35	1 164	299	73	30	93	59	27	63	39
5	845	27	1 163	230	69	26	67	59	25	71	39

(注) 原因別発生件数はうち書きであるため、その計は発生件数と一致しない。

資料：県警察本部交通企画課

# 16 交通 事 故 保 障 相 談

保障相談件数

(単位：件)

年 月	総 数			自 賠			保 障			任 意		
	被 害 者	加 害 者	そ の 他	被 害 者	加 害 者	そ の 他	被 害 者	加 害 者	そ の 他	被 害 者	加 害 者	そ の 他
昭和49年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
50	502	300	235	443	274	198	19	4	6	9	3	—
51	536	286	334	442	251	284	40	4	18	10	8	8
7	55	12	23	43	11	20	7	1	2	—	—	1
8	35	21	24	27	19	21	7	—	2	—	2	1
9	39	25	25	32	24	19	4	—	—	1	1	3
10	50	24	21	40	20	19	1	1	1	4	—	1
11	35	28	27	32	27	25	1	—	1	—	—	1
12	41	42	27	28	32	23	4	1	1	2	2	—
52.1	43	21	37	32	16	30	4	—	2	2	1	—
2	46	25	35	39	23	28	5	—	1	1	2	—
3	41	28	41	39	27	36	2	—	3	—	—	—
4	46	17	37	37	16	30	4	1	1	—	—	1
5	54	29	36	40	25	28	5	1	2	2	1	—
6	48	14	42	34	13	36	2	—	3	—	—	2

(注) (1) 自賠、保障、任意はうち書のため総数と合計は合わない。  
 (2) 自賠＝自動車損害賠償責任保険、保障＝政府保障事業で、保険によらず直接運輸大臣あて請求するもの(無保険・引き逃げ)、任意＝民間の保険。

資料：日本損害保険協会水戸自動車  
 保険請求相談センター

# 17 犯 罪

刑法犯罪発生件数

(単位：件)

年 月	総 数 (認知件数)	凶 悪 犯	粗 暴 犯	窃 盗	知 能 犯	風 俗 犯	そ の 他
昭和49年	21 544	234	1 510	18 413	612	102	673
50	21 814	351	1 347	18 696	604	147	669
51	21 213	253	1 319	17 843	946	106	746
51.6	2 160	19	117	1 869	105	11	39
7	1 612	28	106	1 342	71	11	54
8	1 678	29	109	1 410	76	7	47
9	1 978	25	100	1 733	37	17	66
10	1 577	19	74	1 373	69	5	37
11	1 800	31	100	1 431	166	3	69
12	2 120	24	155	1 699	83	9	150
52.1	1 443	22	94	1 219	45	5	58
2	1 674	23	105	1 409	76	6	55
3	1 515	25	123	1 203	66	11	87
4	1 656	13	130	1 330	82	16	85
5	1 879	25	103	1 630	46	13	62

資料：県警察本部刑事総務課

# 18 火 災

年 月	発生件数	罹災世帯数	罹 災 人 員 数	死 傷 者 数 (人)		焼 損 棟 数	損 害 額 (万円)	
				死 者	傷 者		建 物	林 野
昭和49年	1 596	641	2 412	35	132	1 066	219 281	11 129
50	1 586	618	2 227	41	208	1 023	200 437	736
51	1 593	645	2 368	48	110	1 079	230 797	2 508
51.5	111	61	219	1	10	84	9 002	15
6	60	30	127	4	3	60	6 701	—
7	75	49	150	5	5	71	13 871	—
8	73	43	165	5	16	56	11 210	—
9	72	39	130	2	9	64	8 326	—
10	90	52	202	4	9	82	17 155	10
11	82	45	158	6	9	75	14 444	0
12	178	75	256	9	8	125	76 288	32
52.1	202	80	273	5	17	145	36 774	333
2	270	103	354	10	17	175	30 474	2 059
3	232	72	269	8	16	131	11 827	226
4	147	72	230	5	11	122	12 175	226

注) 損害額はうち書きである。

資料：県消防防災課

# 〈新着資料案内〉

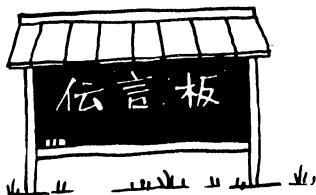
この資料は、5月中に行政資料室に到着した主なものです。ご利用下さい。

付属庁舎4階 行政資料室 TEL 0292-21-8111 (内線 427)

行政資料名	発行所(者)	行政資料名	発行所(者)
<b>中央官公庁関係</b>			
昭和50年 国勢調査報告(秋田県)	総理府統計局	昭和51年 養蚕振興補助事業の概要	蚕糸課
昭和50年 " (埼玉県)	"	昭和51年 漁業労働力需給動向等報告書	漁政課
昭和50年 " (新潟県)	"	昭和52年 卸売市場の概要	食品流通課
昭和50年 " (静岡県)	"	昭和52年 県西の畜産	県西地方総合事務所
昭和50年 " (宮城県)	"	昭和52年 茨城県鹿島港	鹿島港湾事務所
昭和50年 " (佐賀県)	"	昭和52年 教育行政の概況	教育庁総務課
昭和50年 " (栃木県)	"	昭和51年 家庭教育相談事業報告書	" 社会教育課
昭和50年 " (福岡県)	"	昭和52年 茨城県遺跡地図	" 文化課
昭和50年 " (茨城県)	"	昭和51年 茨城の犯罪	警察本部
昭和50年 " (奈良県)	"	<b>県内市町村関係</b>	
昭和50年 " (長野県)	"	昭和52年 住民表示新旧・旧新対照表	土浦市
昭和50年 国勢調査解説 我が国の人口	"	昭和52年 竜ヶ崎市の統計	竜ヶ崎市の山方町
昭和50年 " 徳島県の人口	"	昭和52年 山方町誌(上)	文化財保存研究会
昭和50年 国勢調査日本人口地図	"	<b>都道府県関係</b>	
昭和51年 科学技術研究調査報告	"	昭和52年 北海道勢要覧	北海道調査統計課
昭和51年 増加図書年報	総理府統計局図書館	昭和52年 北海道の姿	"
昭和52年 諸外国における統計の制度と運営	行政管理庁	昭和50年 岩手県統計年鑑	岩手県統計調査課
昭和52年 指定統計の調査票集録	"	昭和52年 岩手県勢要覧	"
昭和51年 統計調査総覧	"	昭和50年 宮城県の工業	宮城県統計課
昭和51年 統計制度と統計調査	"	昭和52年 山形県勢要覧	山形県統計課
昭和52年 地域経済要覧	経済企画庁	昭和52年 統計からみた栃木県のすがた	栃木県統計課
昭和51年 農家子弟の新規学卒者の動向	農林省統計情報部	昭和51年 小売物価統計調査年報	群馬県統計課
昭和50年 農家就業動向調査報告書	"	昭和50年 県民所得推計報告書	"
昭和51年 水陸稲収穫量	"	昭和51年 法人企業経済調査結果概要	"
昭和51年 果樹基本統計調査結果	"	昭和51年 消費者物価指数年報	"
昭和52年 農林水産統計	"	昭和51年 移動人口調査結果	"
昭和50年～51年 農林省統計表	"	昭和51年 家計調査結果報告	"
1975年 農業センサス農業事業体調査報告書	"	昭和51年 学校教育統計書	埼玉県統計課
1975年 農業センサス農家調査報告書	"	昭和51年 統計資料目録	"
昭和51年 果樹基本統計都道府県別報告書	"	昭和51年 埼玉県の商業	"
昭和50年 我が国の鉱工業	通産省調査統計部	昭和50年 県民所得統計	千葉県統計課
昭和49年 商業統計表(品目編)	"	昭和51年 千葉県の商業	"
昭和49年 " (産業編下)	"	昭和51年 千葉県の人口と世帯	"
昭和51年 海岸統計	建設省河川局	1975年 農業センサス経営部門別	"
昭和51年 全国都道府県市区町村別面積調	" 国土地理院	1975年 農家統計(野菜編)	"
<b>茨城県関係</b>			
昭和51年 環境白書	環境指導課	昭和52年 東京都区市町村別人口の予測	東京都統計部
昭和51年 茨城県の災害	消防防災課	昭和52年 グラフで見た東京の姿	"
昭和51年 知事を囲む広聴集	広報課	昭和51年 行政資料集録	東京都公文書館
昭和51年 茨城県統計年鑑	統計課	昭和51年 東京都行財政三か年計画	東京都民資料室
昭和51年 高能率生産団地特別診断報告書	農政企画課	昭和51年 都政	"
昭和50年 農業改良資金業務実績書	農業経済課	昭和51年 週刊とちょう縮刷版	"
昭和52年 合併農協統計表	"	昭和51年 果樹基本統計調査結果報告書	神奈川県統計調査課
		昭和51年 総合生活指標	新潟県統計課



行政資料名	発行所(者)	行政資料名	発行所(者)
昭和51年 にいがた県の商業	新潟県統計課	昭和51年 大阪の学校統計	大阪府統計課
昭和50年 新潟県の県民所得	"	昭和51年 統計からみた大阪のすがた	"
昭和51年 新潟県の雇用・賃金の動き	"	昭和50年 兵庫県統計書	兵庫県統計課
昭和52年 統計でみるいしかわ	石川県統計調査課	昭和52年 兵庫県勢要覧	"
昭和50年 人口移動の実態	富山県統計調査課	昭和50年 工業統計調査結果報告書	奈良県調査課
昭和52年 福井県勢要覧	福井県統計課	昭和52年 奈良県勢要覧	"
昭和51年 教育統計調査結果報告	山梨県統計課	昭和50年 奈良県統計年鑑	"
昭和50年 工業統計調査結果報告	"	昭和50年 鳥取県の人口	鳥取県統計課
昭和51年 毎月人口異動調査結果報告	長野県情報統計課	昭和51年 商業統計調査結果報告書	島根県統計課
昭和51年 長野県の果樹農業	"	昭和52年 広島県勢要覧	広島県統計課
昭和51年 長野県勢要覧	"	昭和52年 100の指標からみた香川	香川県統計調査課
昭和51年 岐阜県統計書	岐阜県統計課	昭和50年 工業統計調査結果報告書	愛媛県統計調査課
昭和51年 学校教育統計調査報告書	静岡県統計課	昭和51年 愛媛の果樹	"
昭和50年 生産動態統計年報	愛知県統計課	昭和51年 愛媛県の商業	"
昭和52年 愛知県統計年鑑	"	昭和50年 法人企業統計調査結果報告書	福岡県調査統計課
昭和52年 愛知県の人口	"	昭和50年 県民所得報告書	"
昭和51年 三重県勢要覧	三重県統計課	昭和51年 福岡県鉱工業指数	"
昭和50年 県民所得推計結果報告書	滋賀県統計課	昭和48年 市町村民所得推計報告書	"
昭和52年 統計でみる暮らしのしおり	京都府統計課	昭和50年 福岡県社会指標	"
昭和52年 京都府のすがた	"	昭和51年 法人企業統計調査報告書	長崎県統計課
昭和51年 京都府統計書	"	昭和50年 熊本県統計年鑑	熊本県統計調査課
昭和50年 京都府民所得	"	昭和51年 熊本県勢要覧	"
昭和51年 織物と陶磁器・機械のうごき	"	昭和51年 熊本県の商業	"
昭和51年 京都府の勤労統計	"	昭和51年 鹿児島県の商業	鹿児島県統計課
昭和48年 大阪経済の産業連関分析	大阪府統計課	昭和51年 沖縄県統計年鑑	沖縄県統計課



## 地方統計職員業務研修の専門研修が開かれます

7月14～15日、大洗町曙荘で開かれます。この研修は6月29～30日、7月4～5日に開かれた基礎研修の終了者、または統計業務に2年以上従事した人が対象です。

研修科目は、「統計の理論と実際」(茨大工学部 牧野教授)「官庁統計の当面している課題と対応策」(行管 中平監察官)「茨城県の金融経済の動向」(常陽産業開発センター 増田総括主任研究員)の3科目です。

担当は県統計課企画調整係(内線 420)

## 編集者のほやき

子供のころは、7月下旬から始まる40日間にもおよぶ夏休みが一番の楽しみであった。宿題だけが悩みの種であったが、海や山に行けることがどれほどまちどおしかったことか。

さて、勤めてみると夏休みは5日間しかなく、ずい分とガッカリしたものである。それに馴れるに従って、海や山に行くことが、だんだん面倒になってきてしまった。今月号の喫煙室のように、山に登るなどとてもとても。

それだけ老けたのであろうか。